俳諧千蔭句集 巻一

洞海舎漁谷撰

俳諧千載集 四冊

一具菴校合藏

序

拾遺集の序に

世乃なかるゝ歌を撰ばれたる

こゝろを一家の歌に係ふ

人を感ずるこゝろを其詞

に付て八雲まゝ心を

かなに長そへ八環乃

洞海舎蒲谷櫛

俳諧千鳥百家集初篇四冊

一具菴校合藏

序

[illegible]

世乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりやうに所時うをうは
わてゝ又たゝりけるゝゝら
かゝるかゝ出とゝ作おも
へるもいとあゝ所あり
まゝ年ゝてふお所
ゆゝいへゝも実ハうの
ゝにいうゝいさゝ中ハゝ

序

業代ゝゝ同中時ゝ
所ゝゝゝく本人ゝる
るなゝゝゝ実なる人
実ゝいつゝおゝこゝるゝ
ゝさゝゝゝれゝゝゝる
ゝゝゝゝ多ゝ十方時の
ほりゝゝゝ人のゝゝ

みよもと我人々ふかくたしなむ人
さハ御存のはなしたまハずや
るまいかいうろ縫されハ云のも
きそくなしといふうちに
つよろ伝梓もとのもとめさ
あらく寓しと梅亭鵞叟 之

十篇自序はしがき
梓が書乃人のもとめさうがハりと鞋ぜバ
あまた名作にうつるともいふ画く出世の
花の八代目をよ継ぐぞ流るるを擬しらバ生せ
利害ふ明かすともらふ画しひとりゆくの
名利とはおれるがぬ花ハわ繕その名残を
るとをえ便ふ云つくる人の心志しび我ねす
みをけふしきのみ作の志すめらんハ肖え

葉あめるくれんだいとうのくさ
とよう木はるんなのたまぶ
ぶとなえぎいのぐいみぐ
たでめとまふさぶ
うがみの蔵をうぐ
うじとのまぐめるとう
梅びあるるのどもとん
たるのとあるいあでがる

ふあるてあるうあるひさるもあ
るて花みるあまあ梅びるさ
葉めるるてとびうてはの
そぐうあの梅とかやさん牡丹入さ海あう
梅あ花べてる唐のみどの霞あ侍ま
美仮よあ花とあ海ぐるうある葉
の家あるるたい枝葉がうめる達うとを
浅ちぐうて蔵花美大むの海のちあ

をうりてはうをもとめ
ばかりとなりぬ
ぬるとまりあるべし
地の変化八天の雲如
まねの人はよ屋子蔵の
むうよおよぼ
ちひさ
こんやその世めを
そもそもよの
よをそだてゝ
七あるこの世の
ぐ四九流よりの
えぐ屋あるべ
の撰者幸先
ぞ
とさいで
海を世よ

人名録

武藏

鶯笠一 蕙茶靜 大梅節之松秀田蒹月峴
素芯千輅 ㇷ是吉陸史千代臧斗庭詠帰
碓嶺應々碩布禾木小圃南濤たる紀一樓
枹儀椿海謝堂松巢隻木女和琴一雅相我
八朶對山得蕪有月丁知麻交禾葉亀稱
梅宁惟草遲流伯夫荷乙文洲キ山休圃
鳥義氷谷八重女英山粗年露泉大菅千齋
太拳幸雄ちゝき鶯郷女伸女雨村桃機てゝ女
清樂渥美有一ちゝ女其笑其兆夜雨九白起

きさらぎなかき梅へるハ江戸白梅園
の渡士梅ちゝみ四ゝ乃あ江ゝ江ゝ
天保四年一月廿六日

北賢里竹何平柳啓太氓萬居曾見卓郎
丰采雨槿半丈李席素楪松匝易年湖山
扇紀暮俗磅山白桂荷了春路渓齊文教
五調東外松什周愁五老桃鳩松井千之
孚石狹國霞城岐久守笑詣姝子宗川扇花
栢樹以交庚年以吉貞雄真波美秋臺樂水
雁臺太瓠昨木罕勇女耕雪女麦女南々政香女
文来桂秀青亀青鸞里春氷民氷瓢吐香

下總

桂九桐雨梅雪雨花女桂茅女青嘯蜀錦文廣
一甫錦哉露什雨汀茶概青池荷堂幻芝

名村一笠孤采鬼郷江月斗囿四明市

上總

玄阿寛里

伊豆

杏園

甲斐

芳谷采牙松海

相模

雑啄洞々

常陸

野巣玄々甫石甫月思文雨〻眉蕉藤紀

山笑素白昭眉素有雅柳拝芙呼友玉葉
蘭月湖平嘉月杉月東止杉外古川戴星
清平竹秋甫山石竜五竹尚古只夜蛍浦
谷從よりの杜年一兆一雨五風天山民校
范父次峰天葉與秋菊民雨明三槐方居
真翠南校立角

上野

壷牟茅九阿弓雞周茶径菟松鹿太器水
丁布鳳石望雄栗笑捷々田齋之厚松月

下野

星谷道雄素有石苻積翠一水花甲知義

蔦蘿嵐齊素考一夢

信濃

八朗易足牟山

越後

芝蘭丹湖万里文里月下應雨五呪孔正
赤蓼吏川宗兆三桃李朗宇桂可得蕉古
其席文鬼巨童松舍ちう猛春及兀弓玉和久
文鵬湖月文光乙老左陸笑壷羽白二洞
左耒波丈西阜蕉丘愚本誼老宇弘十翁
可英弓々松塢真菅呉洋文齊蓬亭抱琴
雲也棠郊里月如水迦孫乙雅秀和柯亭

出羽

古翠太橋宇高二丘稻州友之玄子左琴
雀堂木公斗玉凉菠民城丈二正令吟霞
松恕秀槁月甫如旭梅周似光之圭松和
一幸深月美文川丈三丁川長旭丘羽人
如仙秋和恕雲乙員卿風貝谷石砧う秋安
二丫雲山李關山水不材志肴吟歩稲香
柏雅水竹志蘭其水玄文潜雨乙蝶蕉素
文呂子績幸二羨峰来六擔月霞江

陸奥

曰人黙巣多安馬年清女一之嵯洋扎九

草井薪水一露夕山汀左木司一竹芭
五臺石上竹葉芦帆芦月文俾無才素三
祖卯布席竹岫双之蒼夫揚花鷺雨甫山
大費二晶江三霞翠蓼雨不曲長彦永圖
雨芳巣乎陶烟松雫有水雨明量山如蓬
不流龍化篠流高山篠山蓉毋瓶乙東嵯
二の陸ゑ謙平乙調天年氷月忍山文月三平
半侶萍汝文脊桂裡與人九畦綾流季艸
双二鳳毛草琚蘭路雨考竹里竹馬五篋
酒好 かまず 不着一甫月露雨窓一遊素未
蘭中大椿東杜一毛一陽文和乙彦馬尻人

素封點牛津人木架山雄夷則一翠梅渓

人名錄 終

類題十萬句集初編春之部目錄

春之上

元日 初丁
元朝 二丁
左 六
初春
初空
初雞
初鳥 三丁
初日
今朝春
明春
花春
君春
玉春
年春
菴春 四丁
年玉
年玉
御慶
年始
禮者
初暦
初夢 五丁
寶船
御降
蓬莱
喰積
門松
門餅 六丁
松内
若水
若夷
い祢つむ 七丁

屠蘇　穂俵　みゝ看　鏡開
太箸　雑煮　大福　年男
懸想文　弓始　着衣始　謡始
寶引　福曳　八丁　水祝　破ゝ弓
藏開　今年　左義長　飾焚
とんと　萬歳　猿曳　九丁　手鞠
羽子　粥杖　正月　十丁　睦月
小正月　十二丁　七重　人日
小松曳　子日　傀儡師　餘寒
冴返　養父入　十二丁　残雪　十三　淡雪
雪解　春寒　春雪　十四　初霞　十五　霞

長閑　十八　永日　十九　暖　麗
遲日　暮遲　水ぬるむ　廿　陽炎
系遊　東風　九一　春雨　廿二　春風
八巾　廿四　若菜　廿六　薺　廿七　芹　廿八
佛坐　娵菜　鶯菜　下萌
土筆　蕗薹　廿九　蕗芽　三十一
福壽艸　廿九　木芽　四十一　梅　四十二　若草
白梅　柳　四十九　挿柳　四十七　野梅　四十八
椿　四十九　落椿　五十五　松花
鶯　五十一　鶯　猫戀　白魚　百千鳥　五十七
蜆　蜆　雲雀　駒鳥　海苔　卿忌　五十八

二月 九十九　衣更着　二日灸 六十　初午
春月 六十一　朧月 六十三　朧夜 六十四　春夜
春宵 六十五　初雷　出代　彼岸
涅槃會 六十六　西行忌 六十七　水口祭　田打
畑打　初虹　春日　春水 六十八
春海　春川　春山　春空 六十九
春雲　初花　初櫻　系櫻
接木　挿木　苗代
種卸　接穂 七十　大根花 七十一　鬼杖
早蕨　菜花　蕨　獨活　蒲英公

麻蒔 七十三　種芋　杉菜　菊苗
菊分　芦角　芦芽　蔦芽
蓼萌　艸萌　蘩縷　春草
畑焼　山焼　焼野 七十四　春野
蕪　雉子 七十五　帰雁 七十七　行雁
雁　春雁　春鳥　親雀　孕雀 七十九
雀子　曳雀　鴨引　鳥巣
巣鳥　鳥交　初蛙 八十　蚍蝶
蜂 八十一　蜂巣　鮒鱠
螺 八十四　落角 八十五

三月 八十六
汐干 九十
櫻花雲 九十八
海棠
菫
躑躅
呼子鳥
小鮎
春情

弥生
春霜 八十八
山櫻 九十三
花雨 九十九
梨花 百
連翹 百二
藤 百三
鳥雲入
蛍
行春

雜別霜
遲櫻
花見
杏
辛夷
山吹 百四
麥 百五
竹秋
暮 百七

雜合 八十七
桃花 八十九
木蓮花 九十四
木瓜
茶摘
艸麥 百九
若鮎 百六
三月尽
春題不知 百八

類題十萬句集初編春之部上

洞海舍凉谷編
一具菴一具校合

元日

[illegible] 江戸 素芯
[illegible] 大梅
[illegible] 一蕙
[illegible] 陸奥 碓嶺
[illegible] 常陸 凉谷
[illegible] 一具

元日や物喜ぶ雲の上　箱館
元日や輕く暮るる京力　出羽　一南
元日や人も通さぬ番所　吟霞
元日や雲うす紫の笹の葉　民城
元日や人ゆゝしく夢ひる　陸奥　左琴
元日や茅を結てのみ毒　越後　芭角
元日や子よ起されて空　夕山
元日や又一つ増て家ゝ　庵陸
元日や夜明ぬ前の鶏　江戸　松塢
元日や暮るもしらぬ雪の降　一雅
元日や名残の雪　千輪
元日や多き山の形　キ山

元朝

立春

元日や一つ一つ鶏ゝ白の波　卓郎
元日や夕ゆふ人あるの人通り　素樵
元日や暮ゝ佃の軒の雨ゝ　左紙
元日や大ぶ屋寒ぬ深　南部　有一
元朝の松の新ゝ基盤式　常陸　素来
元朝や思ひ寄ぬ下ひ玉ま　云く
元朝や物も袴の紋ゝ　吟霞
春ゝ庭や竈の上ゝ鶏の声　越後　キ山
春立や方ゝ出る栗ゝ稼ゝ　孔正
ゝる立や枕屏風のふゝの山　千輪
方庭ゝと実生軒の垂水ゝ　一具

初春　裏吉や小舟の棹も於もきく　雄嶺
　　吉る吉やあまとと吉ゝと雪の宿　箱根　布席
　　寿ゝ吉や面よ笑ゝる軒の梅　江戸　大梅
初空　吉原吉ゝ以ゝ初ゝの夕ゝ寿　松井
　　初寿や智恵の月ゝ子供客　出羽　白峨
初雑　おゝゝかな寿の吉ゝ良ゝ於　陸奥　稲洲
　　吉原寿や雀も以ゝ起ぬ空　越後　双二
　　初空よ特ゝ見ゝ晴ゝ岩ゝ家
　　吉ゝ吉や扇指ゝ一つの口　五峨
　　初雑や掛ゝ二ゝる独吉ゝ　面よ女
　　吉ゝ吉や枕吉ゝる友吉ゝ　素芯
　　松鴉

初鳥　初ゝ鳥四方ゝ内ゝ来ゝ声ゝ　陸奥　二品
　　多ゝ数ゝ多ゝかゝ鳥ゝ鳥ゝ流　江戸
　　あゝや毛ゝも居ゝ家ゝや初鳥　出羽　旭丘
初日　吉ゝ吉ゝ正本吉ゝ初ゝ吉ゝ　江戸　丁知
　　伏拝ゝ悔ゝや初ゝ吉ゝ　常陸　民校
　　とゝゝゝ初ゝ吉ゝ佳ゝ家　江戸　周慈
今朝春　松外吉ゝ吉ゝ初ゝ吉ゝ新　丟く
　　今ゝ朝ゝの寿上ゝ上ゝ上ゝ礼　出羽　一貝
　　梅松の白ゝ傍ゝ吉ゝの寿　武蔵　川長
　　年寿とゝ吉ゝ吉ゝ吉ゝ吉ゝ吉ゝ裏　陸奥　樂水
　　以ゝ吉ゝ吉ゝ松山吉ゝ吉ゝの寿　大費

明春　出羽　庄喬
花春　江戸　久藏
　　上毛　茶径
　　自峨
君春　陸奥　一蕙
玉春　東　文和
年春　越中五箇　雨考
宿春　上毛　木司
　　信濃　葛松
　　越後　千山
　　湖

菴春　江戸　ちうき
年立　出羽　大雲
御慶

春　江戸　椿海
　　甲斐　芳谷
　　江戸　五峨
　　常陸　末木
　　野巣
　　一蕙
　　卓郎

口上や上戸の髪探り　江戸　素檪
とかくせとと出るは講の仕業哉　了是

年玉　年始

手を突て子の袋より年玉や味噌くさき忘れ貝　下総　松塢
乗つを出す門の手始め　江戸　梅雪
手始めを出すとしかしの男う舟　陸奥　妙子
笑ふ賀を頂く婦人の手始め　江戸　鼎湖

禮者

侍の肩借りて出る礼者哉　陸奥　一之
ちらもこ一杯飲の礼者哉　江戸　南濤
あの一名の人もさくる礼者哉　下総　桐雨
笠の明や門を待て礼者哉　竹子
　　大梅

初暦

指くゝ世の何あるとも笑ふ暦　箱根　莫
もの咲かるるも咲つ指と初暦　越後　蕉丘
さつ暦老る身あるゝ先床し　角よ女
母の手に指てゝ月出さし初暦　常陸　山笑
舍住根の雪や新しき初暦　陸奥　一陽
芽出つの出さるるやさつ暦　越後　宇桂
さつ美や舟指宗の苧初暦　民枝

初夢

初夢を咲もゝ神路山　江戸　五峨
戸を明て初夢ゝ忘れ笠　梅宇
森人はくさのゝ舟　雪茅

宝船　御俸

出俸や大つゝ事舟ゝ　茶静

蓬莱

御俳や高くとる陰も松のもと　江戸　史千

ゑ修や物書ぬ河原河　荷ゑ

蓬莱や松のあくみも雑の秀

蓬莱残二附く傍る市ゑ雪　武蔵　硯布

蓬莱を窮屈ゑるや芝屋元　越後　南く

蓬莱とゆふも松の尾ゑ　下毛　万里

蓬莱をぬくくとる男哥れ　花甲

喰積

ゆくゑる童蓬莱社角しゑ　上毛　吟震

喰積を持ゑ来る孫の力ゑ　江戸　雑周

喰積ゑ豪ゑ忘もしゑ武　牡草

門松

門松ゑ新しゑ松の弼ゑ　一長

門松や根も有ぬ物のいきよま　江戸　史千

つまゑゑ乾ゑ小藤西　宗川

門松ゑ新ゑ角ゑ　ちゑ女

つゆつも母ゑつてゆゑ土産物　日光歌　左琴

雲ゑゑ牧山の小家ゑ　江戸　知機

来ゑも千代ゑ傍ゑ　ちゑ女

門飾

門飾町ゑ人ゑ　日光　涼谷

夕ゑゑ鶴来ゑ雲傍　積翠

松餅

塀ゑゑ旭ゑ松ゑ　京左江戸　松秀

赤ゑ者ゑゑ　伊豆　杏園

松内

笹ゑゑ新ゑ松の内　常陸　谷従

隙きの伊ろ殊し松のうち　多よ女

家ごとに游び易さよ松の内　羊山

猶ましき匣披かさん松の内　京在江戸 節之

米の蟹の扇ほとりや床の内　越後 宗飛

松のうち油うけくる志ん気さ　宗桂

子供らの物忌出合や松の内、　文里

若水や小さき山の端に星一ツ　月暁

若水

若水を汲みて兼ねて物寂しく　江戸 曽見

四五軒の若水よくや清らなれ　五暁

若水を握く手するや一ちょうし　常陸 古川

若夷

若夷ちんの恵を覚えあり　丁知

以称つむ
屠蘇
穂俵
みし着
鏡開
太箸
雑煮

掌に護摩の供物や若夷　越後 ちかう

以称とむや蓋あく人の香の色　荷丁

屠蘇汲みし笑ひ初気と親の鮮　上毛 栗笑

穂俵の萬葉たまも詠まるし　江戸 禿禍

三ヶ日秋子旅のなかみし看　椿海

開くるや鏡ぬい来の香の物　日光 石莉

太箸も手にしや三つ細るよ旅せ戎　史千

太箸としく入るや祝扇、　蔦蘿

箸とくく栄の友前も雑煮かな　素芯

雑煮くう娘に杓子を譲りけり　江戸 荷乙

何の手くく捏ねて喰ふ雑煮好　京在江戸 四華

子を抱く雑煮の椀の匂ひ　一雅
大釜の湯わくを呑みかねて　石苔
大掃くを呑みかねて　千輪
大福　江戸　小圓
年男　男ばかり　国の年男　常陸　鶴亭
年男　年男　横ぶり　老化の
横ぶりや　上野の手男　常陸　花父
愛想文　愛嬌文　面白女
愛嬌文　愛嬌文　木司
着衣始　着衣始　蕉丘
着衣始　着衣始　面白女　常陸　杜平
宝引　宝引　宝引の宝くじ　面白女

宝曳や大黒柳の陽うら　先民校
宝引や引つ出す孫うら　ちう
福曳や男は抜くもの　永木
福引や抜くもの　面白女
福曳や大きく出る松の月　雪篠
水祝　祝ひ倩の大きく出る　民校
破魔弓　破魔弓の謝礼　出羽　古翠
藏開　出羽の藏開　箱俊　一甫
今年　今年の義長　玄く
左義長　左義長や以ま降り　阿雪
左義長　左義長あるく森の来め　石苔

焼焚

古墓もや面影残るる　越後　宇弘
吉例よ庚申の畑や焼く　万里
畑那の伊勢く祈や作るく　江戸　何年
ちらく焚火ちらく光一人　出羽　友之

とんと

嫁入のきもの着たるとんとれ　甚女
着せもとんとの風と新年　江戸　知機

萬歳

年やふ二月祝ひを嫁の宴　阿波国江戸　湖山
年もやあの新年先生　太華
年の年と列座よ年ぬ結仕人　芳兒
万歳ふ祝ふ着て加く扇子　甚女
右賃年年年年山の城　民校

猿曳

年の猿の着て代翁　上毛　棣
萬年の仕舞て立る清出　陸奥　祖戸
万歳のもの年や一児の猿曳よ　栗笑
年よ年年年年年　樂水
猿曳ちく祝芳年年　越後　南風
猿曳の舞の舞の年　江戸　巨童
ける引やんきく祝ける　有月

手鞠

猿曳や厩年年上宮　常陸　旭丘
年の形の保山木形猿よ　南月
猿曳や猿く猿ふ辞義ふて　陸奥　家紀
手鞠ふく祝て乾きぬ鹿の宮　黙巣

羽子

作懸のうつくしき紙子羽子　越後　笑壺
立ぬ通りくしぼくまれる形　禾木
老羽子の井戸の梅侍屋敷　因兼
やりたくやてんとうる松の枝　越後　貞麿
羽子あつれを新しき丸髷の御心
突たくん羽子のめ帯よりやる　江戸女　雪々
着物のうしろ帯かし寄こ羽子の友　古翠
宗長系人　一具

粥杖

正月の宵森さしめや八日の杖　曽見
正月やゆ徒来庚の子の附　桐雨
祝ひけり正月の宵や小田の家　湖山
正月の風うつくし海の水　湖岸
正月も立ぬうつくし人の新　陸奥　薫丘
窮屈な正月も霧の香　薪水
正月や長煙くく通ふ煙管　出羽　一作
正月の恵せる家貧屋　水公
正月や寄くく垂仏習ふ　民枝
暮の寄て正月やする柱一つ　江戸　祖門
正月や形ばかる侍家　越後　鶯笠
正月や去年ばかる古雪　文光
正月も高屋やくく角の水　左来
正月も寄ちくく春の西　千輪
　　文角

睦月

正月や[illegible]相撲
[illegible]と唱へ初る
[illegible]の[illegible]
能中家内[illegible]睦月哉
松[illegible]
出[illegible]吹[illegible]睦月の[illegible]
掌[illegible]
[illegible]忘れする[illegible]
[illegible]睦月哉
縄[illegible]
[illegible]睦月哉

大賫
一具
椿海
月峨
[illegible]女
仝
信濃 木司
武蔵 易足
貞雄
木司
玄く

小正月

初子日

[illegible]小正月
椿海の先も[illegible]小正月
松[illegible]初子
州菴[illegible]面[illegible]
松の中[illegible]松の通[illegible]
[illegible]家の[illegible]
[illegible]子[illegible]
上毛 [illegible]女
下毛 之[illegible]
[illegible]田舎[illegible]
[illegible]
江戸 [illegible]
[illegible]と遠[illegible]

七種

七[illegible]
七[illegible]
七州や[illegible]
荒[illegible]七[illegible]

雄嶺
椿海
樂水
千軒
[illegible]湖
[illegible]女
之[illegible]
道雄
涼谷
以吉
[illegible]湖

人日

小松曳

養父入

傀儡師

菜摘て七卦南山家苔　下総　鬼々
七草の数摘て林下草　旭丘
自為て七草摘人の多や　越後　積翠
人の多や摘て松も手代摘　芝蘭
人の多摘て摘て摘て摘れ　常陸　素芯
立寄て摘て摘て摘て小松曳　裁星
摘て摘て摘の指先や小松曳　道雄
足元を踏て折て摘る小摘て　陸奥　五岡
山あて摘の白て摘て小杏引　謙平
金解て摘て摘て摘て小松曳　太華
小松引て袖や引て摘て摘の糞　有一

足元を摘て人手借や小松引
曳て松引つて摘や小松曳　江戸　二晶
義入や解て摘て小摘河　千齊
中入の足て四て摘て菜園畠　杏園
藪の背中て摘て摘て摘て摘子の多　左琴
宮父入や岩て摘て摘て宮祢　千輅
義入や重陽の杏も摘処　双二
中入の小華て摘や摘て紅　禾木
萩入よて摘て摘て摘て織物　越後　蓬亭
傀儡師　伝田の杏て入て摘　素芯
世の中を貧て摘て傀儡師　陸奥　茱路

餘寒

冴の彼もさてをしぬ傀儡師　出羽　高女
古人の俳諧なる解をしく　南部　西令
古暦さてをしく舟の余寒　雄嶺
雪山木のあるる限りの解をしの礼　出羽　石砧
双六の白も出ぬ余寒かな　江戸　鼎湖
枕もとの板きしる寒ふ余寒　相我
傀儡の手もとハ手元のよろん式

冴返

冴返る鞍よ柳の布ぬるる礼　久藏
きえ返る鶯を見ぬ春の夷　幸雄
出てきもハ赤くなる寒の余寒　茶静
集雪　白き雪なる雪の卵　椿海

春寒

春寒しいたゐ寒るる小石壁　江戸　謝堂
人参の葉寒しやなる俊しも　陸奥　長彦
寒寒し思ふ〳〵と恋の礼
ちる雪や手刺の跡あるの粒　越後　吏川
春寒しいたもとも生る屋根の竹　布席
掃ちもく笑もあるよ残る雪　千輪
風鈴の中ちる残る芝の雪　上毛　雄嶺
のこる雪残る千菜もあるる雪　武藏　葛松
残雪

残雪の中ちるや九本の橋柱　出ハ　文洲
雪ちる雪の礼ちる残の上　江戸　一幸
春風よ残の雪解礼　丰逸
淡雪

雪解　一具

雪とけや猫の行る庭の木の根くゝ出くゝ蘆の芽　妙子

雪解の流くゝ通る島ちま　江戸　丁雨

雪とけや嶋の立木もあらはの宮　乃菖

あらはれの苔くゝ染し雪解哉　布摩

雪解を足色八ッ山ゝ家の面　多よ女

雪解や生きくゝやくゝる石仏　箱佐沢　旭丘

負ふくゝの又負くゝる雪解哉　陸奥　量山

物陰や菜畑の雪の解くゝ　葬母

小君の籠を出くゝる雪解哉　涼谷

雪解や富山を出る菜麦　常陸　草井

只夜

春雪

雪とけよりもやや小雪の十五夜、　南月

雪解や好ひの雪る山の町、　湖平

負くゝ蕨をくゝめくる雪解哉　左琴

雪とけや古くゝ付く物の色　出羽　雀堂

舟をもて野のくゝ芽ふく雪解哉　玄くゝ

雪解くゝ井の新芽ふる雨の水　祖印

足袋を突き出くゝ雪解哉　友之

下ちくゝ出這入る雪解哉　周然

山里や雪とけの中に椿少し　梅宇

聖ふる雨ふる雪とけくゝ　椿海

窓とおくゝ碁打ふや春の雪　武蔵　芳月美

山の雪とゝ尋て行や春の雪　松秀
家世めく煙壺の中まの雪　布庵
春の雪亦蒙の蟲の鳴ぬ　下毛
窮屈の障出しまゝ春の雪　江戸　一夢
春の雪紫をしあけて陰ゝ雪　麻交
蛾の影ちらし雪ゝ春の雪　白起
物字群の暗あくる雪　武蔵　ちる記
雪に赤のこゝ庫や春の雪　昨木
春の雪紅屋の籠の釣ゝ出　越後　乎水
障ゐゝ何よゝ西ちる春の雪　一の得
障わゝるより春のゝて春の雪　巨童
　　笑壺

初霞

霞

雪ちゝ斗稀ゝ春の雪　出羽
雨垂と霞ゝ踏ゝ春の雪　江戸　桃機
挑ちゝ豆腐の上や春の雪　古川
春の雪仆田の株ゝ霞ゝ　芽谷
俳ゝの霞も有ゝ障や春の雪　下総　友之
雪ゝと暗を霞ゝて春の雪　名お
五文字抹消や春の雪　云く
春の雪障雪も霞ゝ雪ゝ　乳正
初霞人ゝ雪ゝてゝも海ゝ　下毛　素考
雪ゝや雪のゝ袋を初霞　ちゝめ
通ゝ人皆白ゝて霞ゝ雪　素芯

一具　出羽　一蕙
雄嶺　下総　杏橋
荷乙　江戸　荷坐
常陸　扇巷
江戸　五風
松付
杜年
松祟

ちゝや女　越後　一夢
吳洋
布彦
晃湖
江戸　和琴
大樹
卓郎
民枝
蕉雨
松秀

つゝ見え人の茶碗皆の竹箒　越後　誼光

道も脇や咲分て風も霞　玉考

風上の木から霞て暮かゝり　江戸　成久子

戸をしめて皐も用なし朝霞　菅彼　永哥

松植て底きは霞せし築かな　稜翠

彼ちらし船峡や松の夕霞、　高山

朝夕の霞も癖あり雑木山、　篠山

葉尾もまだ咲かゝて霞る　祖舟

朝の町はかゝりも霞む端山かな　木司

二日まで筑波へかゝる霞かな　凉谷

江に替て一むら出る霞かな　仝

山里や猶呼かゝる霞かな　陸奥　乙洞

霞から見中に見ある纏りかな　常陸　三槐

旅掛の毛纏ふ休せし山路かな、　杜年

名にしおふ仏の山より夕かな、　葉月

物言はぬ葉によせ夕霞、　柳美

桜刈る松や毎日に霞む　稲翁

霞ゆふや森の出崎り濱畠　仝

葉末のみ見ゆる程なる霞かな、　陸奥　無戈

佳の霞人の丈など遠かゝり　但好

あふるめて見霞かゝり雨のあと　丟之

悪けれ鳥も鳴かぬ霞かな　民樵

色程よく霞たる山の松　道雄
梅の子の一輪咲て霞ける　仝
屋根葺の霞てくるる小里哉　仝
山つの棟よりうすく夕霞　西令
生葉の白き梅より霞ける　東樗　南部下毛
伊吹山の松やすく霞のこりけり　素有
夕ぬきて鶯少し霞ける　五峴
雁向て多く飛て射る霞ける　鶯笠
夕霞義経やゆる木魚哉　乳正
一おち霞くる川のうるおひ　仝
霞せるの絶えぬ梶や立加木俊　箱俊　竹岫

せつつまと霞くるえし山の松
よろかくよ霞を好る小松哉　下総
小田の霞一只佐くよ霞ける　越後
ちくくくよ霞くるやう俊　出羽越後
梅の花伐口にも霞ける　仝
鶯ける仏もとのうるおひ　陸奥
炭竈の烟も霞せ村雨　江戸
八景の霞の中や鐘の声　陸奥
新霞くよりて気の佐くぬ霞ける　常陸
霞もるや海よりより義そ　仝
共霞を出るくる霞む二人哉　仝

揚花　露竹　李朝　梅周　羽白　一幸　深月　西村　竹里　蚕浦

長閑

[illegible]

古川　柳機
蚕浦　雨水
江戸下谷　伸女　青峰
一甫　葉親
越後　玉和く
江戸　一幸　[illegible]女

日永

[illegible]

栗笑　葉静
千南　白起
一夢　多女
椿海　李亭
出羽　仙
箱佐　有水
高山

暖麗

遅日

[illegible]や[illegible]の春愛　江戸　祖阿

行くゝのあるて一倍々永き哉　伸女

[illegible]　道雄

門[illegible]の[illegible]永き慶さ哉　仝

[illegible]る[illegible]花[illegible]　越後　蛍笠

[illegible]し[illegible]も[illegible]我下[illegible]墓の[illegible]面　水戸　几兮

[illegible]暮[illegible]女[illegible]　南枝

[illegible]の[illegible]　得益

[illegible]　蛍笠

菓子[illegible]　蛍卿

[illegible]や[illegible]　民枝

春遅日

[illegible]田面哉　武蔵　黙巣

[illegible]　江戸　文来

[illegible]毎[illegible]　拍樹

陽炎

[illegible]の井戸　出羽　南濤

[illegible]の上　貝谷

[illegible]の[illegible]　桂巣

[illegible]　大梅

[illegible]　栗笑

[illegible]二[illegible]　布齊

[illegible]　江戸　李齊

[illegible]　野巣

陽炎の[illegible]や舟屋の落席や　常陸　蚕屋
[illegible]や[illegible]の[illegible]　五竹
[illegible]や[illegible]の[illegible]皮[illegible]　一幸
[illegible]や[illegible]　下総　市石
[illegible]や[illegible]　椿海
[illegible]や[illegible]　巨童
[illegible]や[illegible]　杏園
[illegible]　上毛　[illegible]雄
[illegible]　箱根　旭丘
[illegible]　雨黄
[illegible]　巣平

佐保姫

東風

春風

佐保姫や舟の[illegible]　越後　爽及
[illegible]　戴星
東風や[illegible]　東樗
大津の[illegible]　雨村
[illegible]　茶静
[illegible]　麻交
[illegible]　阿波　江戸　大宮
春風や[illegible]　江戸女　宴水
[illegible]　白起
芽柳の[illegible]　夜雨
東風や[illegible]

ちゝ　麻交

江戸　八朶

清渠

陸奥　一峯

雨よ女

久戚

雄嶺

五老

ちゝ

棣く

春雨

逝く春や吹き捨てゝ行く春の風　貞雄

春風や入船多き儀口　松秀

入舟の舟も来ぬ日を嫁ぎけり　永男

人の寝る間ゝ〳〵を春の風　惟州

家々も旅の人や春の風　葬母

古巣も稀よ古巣も春の風　大費

春雨や雨ふる上に雨ふる　一具

雨ふる〳〵雨の上に雨ふる　茶静

春雨や稀よ人の行く浦の雨　陸奥

旅に見て外も春雨稀雨　椿毎

岩のよりかゝる梅や岩の角　下総　桂九
春雨や赤しはけし朱四幕の宋　江戸　八重女
春雨や父の紀念の庭の松　陸奥　素考
春雨や義の和く宋横たる　陸奥　文呂
行く春を菓子春雨も春の雨　常陸　一雨
春を惜る碑拓り春の雨　松付
菜苗の絢朱ちるや春の雨　尺山
春雨や大猫の宋し宿の宵　文木
学の根よ曳く宿の春の雨　松巣
春雨の中の中も稿の春の式　仝
春雨や焼宋片も春の雨　得益

春雨や袖うつ月小梅竹　上毛　松月
春雨の中や春平の美の楼　江戸　馬湖
春雨の宿る鳥の背中の孔　雨槿
一服の碁を打出るや春の雨　民校
春雨や菓子の春の傳の尾　陸奥　久藏
山ちや仔よ手の春の菓子　上毛　桂裡
春雨や雲の春の春の雨　鹿方
よくくゝ見れば春の物くさるの雨　仝
春雨や且那ちる花春の仮　川長
雨傘を以つも春の宿の宋　一翠
二昌

新雨ぬる鳥の声や春の雨　蕉雨
二の足の人待つ宵を春の雨　猶俊
寒行や雪に埋まる木の雨　不曲
こくこく花を木の芽の雨や春の雨　長夫
春さめや花の並木の雨、　崇平
春の雨の屋の月や小松の雨　陶烟
春の雨の中を蓑ぬる雨戸や春の雨　出羽　不流
春の雨や庄子も猶糠まみれ　越後　乙負
夕蓑を蓬生よ降や生の雨　江戸　蕣母
降し待つも雪て雪の雨　越後　愚本
春の雨の中を蓑ぬるや一生涙　交雨

春雨や行燈ぬらす料理の宵　一竹
春雨の蔦を走るぬるふ二の雪　芭角
小雪ぐ隣呼ぶうぐいすの雨　魚文
内ぐるぐ鮭ぐる雨　専九雨　俊好
春雨や持鼻ぐるぐる蓑ぐ笠　古雨
屋安元の八百屋を行や春の雨　一甫　官俊
花ぐ屋の簾釈倫て春の雨　西令
春人も雪と松の木の宵や春の雨　梅宇
雲雪ぐも樗ぐも雪ぐ春の雨　玄く
春雨の傳山ぐ老ハて蒙れ　蛋浦
京物よ吉ん人ぐ物や春の雨　玄く

鳳巾

小宰里も旅と云へる春の雨　玄々
春雨の蓑を脱ぐや柳の花うれ　百庭人
春雨の秋〳〵なる旅寝哉　蓼笠
蓑着掛く徳利ぶら〳〵春の雨　菊〻
春雨や翠篭畳上るハつを全　田巣
蓬生よ大風雲や春の雨　子格
春雨の蓑来たりや旭の声　越後　抱琴
松ふるや人の待つや春の雨　雲や
切れ巾や町の布袋一里塚　江戸　懸巣
乳母の乳を離れんや巾　文教
見〻て居れハ舟も動かや巾　南〻

手も脚よ吹れて巾の日毎哉
巾の尾や蓑うるる陸の上　呉洋
後〻のうち消えし巾　布庵
春の〻て風の雨や巾　百女
外掃よ月の待つや巾　幸雄
大仏の白毫よ近し巾　旭丘
切れて粉雪よ巾　量山
切れ巾の蓑とあるや一人田　蓼蕉
松風を去やくうの上を巾の声　美
掃庭に夕月の風やいと長し　雨芳
蓬生や夕蓑てあるに風の蓑　蚕浦
　　素芝

わかくさと名付て初て形代ゝ多
名の秋ちかくなりぬる時
初春よりみも摂津ゝ
摂津や吉野の松と名付
名付る事作の中や角力丸
名付き祝て後吉年祝ゝ
風吉ゝ持も親ゝいとの多ゝ
宿鳥の形ゝゝ名付
きれ名の果やあゝしの茶の寄
初名付や柿の木城てあゝし山
ゝの方ゝ力を吉ゝし麦の上

〇九五

江戸
庚寅年
夕山
甫月
戴星

陸奥
苔谷
芦帆
芦月

皆俳
蒼丈
抱琴
芦帆
道雄
節之
仝
羽白
雨村
左来
史千
一具

春

若菜

名付の尾ゝ上ゝ旭れ
ゝや二人ゆゝやわゝ者の烟色
戸口ゝ吉ゝ持ゝ者ゝ菜式
ゝ解ゝ物の月出ゝわゝれ
茶島や子ゝ菜摘ゝ唄
わゝを摘ゝて名付ゝ
抱ゝ吉て船ゝも吉ゝ若菜式
摘ゝゝ抱ゝ程伸ゝわゝ者
摘ゝゝ兎ゝ菜ゝ吉ゝ船ゝ
子ゝ菜摘ゝ松ゝ名付ゝ
吉ゝ無ゝ名付ゝ者ゝわゝ者式

薺

[illegible]

常陸 上毛 一 鳳石 松嶋 布齊 鬼湖 民枝

信濃 仝 八朗 古祇 [illegible] 雄古

箱根 本 [illegible] 蓬 [illegible] 機

江戸 一 椿海 桐雨 [illegible] 風 以吉 三槐 南く 鬼湖

出羽
名倉
武蔵

卓郎　素撰
雨撫　貝谷
民枝　羽人
霞翠　雉花
政香女　夕山
芳谷

芹

陸奥
竹葉　赤菜
仝
越後
玉利人
采水　大費
野菜　大梅
江戸
桃馬　羽人
女
夏水

佛坐　嫁菜　鶯菜　下萌　土筆

芹摘んとよろめきつゝ人の家の
何よりも先づ摘まるゝ仏の座　下総　一市
ちらゝゝと鶯鳴くや初嫁菜　下総　一蕙
摘みそこなひ実まさりする嫁菜哉　下総　一国
鶯菜売の俤しさよ鶯もなく　春及
下萌やタの白雨降の尻　陸奥　宇魯
摘摘し土筆の上や片くし　恩山
一枝折毎に飯出て水汲ん　多よ女
摘くさも出くさも出るや土筆　鳥湖
土筆七食の菜のまんまもと　宇弘
摘み為て床しき土筆の七絃　陳烟

蕗薹

蕗の里の土筆摘みに行くるにも
蕗の不二を摘きん土筆哉　常陸　東止
片くしや宇宙の摘る蕗二ツ　陸奥　竹秋
蕗摘て家くしや片くし　多よ女
夕新よ春の時る土筆哉　祖印
わかくさの摘物や土筆　梅宇
摘人もまこゝろはこゝ土筆　上毛　南枝
世の中をもしら絃くし片くし　蕗水
蕗の薹　恋よ春の白化哉　雄嶺
春の畑の土の春なる絃や蕗の薹　一具

蕗の薹見えて寒さを忘れ庵　常陸　一樵

折焼て撰ぶもうれし蕗のとう　寸於

せつくりと土の動くや蕗の薹　恩山

あつしと朱小笹の日や蕗のとう　ゑよ女

山里の業とて来まさり蕗の薹　江戸　孚石

ぬくぬくと木の葉の中や蕗のとう　只夢

こて寒く捜しよ老るや不来の薹　素芯

蕗のとう摘かはよい折しよ　出羽　之圭

蕗芽

蕗の芽や雪の出ぬ方庭家　蓬宇

若艸

わか艸や日和に来しその青　庭雨

若草と共に芽し世延　玄々

若艸や枝篝例に荷比葉也　出羽　節之

わか草や牛なる岩の下　美文

わか草や何見の鎌の刈残　下総　古翆

若草に摘つゝ重ねし系庵　四明

若草にそゝくゞる兎かな　常陸　五風

若艸にそゝきしけるや足袋の跡　ゑよ女

わか艸の何隠れや揆菴　蕣雨

若草に伏揃り一捧　陶烟

わか艸や康しき庭の寒習　有水

福壽艸

床扇の家数にあり福壽草　涼谷

蒲團に寒風に寒や福壽艸　李席

木芽

立春より附木てふや福寿草
月燈の芽くゝ持出し福寿草
堂々土の軒くゝや福寿草
寒の内こぼれ種より福寿草
ようやくと赤くなる花福寿草
孫の来て店くゝ上りし福寿草
篇遠より出さんとや福寿草
袴着て芽ぶくゝ福寿草
さ孫ぶくゝ木の蕾の中へ下り花
小冠者の来るぶくゝや木の蕾
孫ぶくゝ向て歩るる御篇の木の芽

陸奥

曰人荷乙積翠
一之乙疫
孔丘
節之
鳳毛
芝榮
木司
左琴

蕾ぶくゝの九ぶくゝ雪ぶくゝ木の蕾
裾ぶくゝの紅ぶくゝ迎ぶくゝ木の蕾
面の寒の赤ぶくゝも成し木のめ時
芽無ぶくゝ移ぶくゝる赤ぶくゝ木の蕾
ぶくゝもぶくゝや柿ぶくゝ紅ぶくゝ木のめ孔
気の使いぶくゝ紅も出ぶくゝる木の蕾孔
方敷寸恒移ぶくゝや木の蕾吹
特小屋のつんぶくゝ曲ぶくゝる木の蕾
とんぶくゝ来ぶくゝ紅ぶくゝ木の蕾
孔先ぶくゝ紅の赤ぶくゝ木の蕾孔
木ぶくゝの芽や加ぶくゝ出ぶくゝる谷の花

陸奥

祖父
露什
笑壷
美文
鶯卿
仲女
乙貧
大貴
茶静
千齊
三平

古曲梅くさ生る近江の木の芽哉
木の芽乃比や伊賀山より 俳諧
数々に木の芽を見せぬ梅の花
芽を張て木の芽れもの世くく
と雲の菜寒く梅を芽ひ全
神垣や梅一宮に梅の色
梅の色雪に垣を垣られ
四五梅を伝まし芽や雲の梅
赤くよ家の里や春の色
ちくうる陸こあ今の梅見れ
婚物を寒る軒もうえの色

有水 不流 羽人 老夫 一蕙 谷従 茶静 武蔵 浅角 江戸 英山 ちく紀 一見

春信ふるもあもとも梅の色
出逢と梅屋しくく舟上
風よりや梅よかくも屋沙明
雲人よ雲れ久う梅二まん
まく舟う芳くよ雪れ梅白ふ
舟を春あくく梅をもの
きね上る土も乾くや梅の色
鶯々の毛ちく屋ぬ梅の花
僧きぬ鳥の梅ふや梅のくれ、
降まくよ雪まを花見梅の色
蕨立くく梅れ老木を赤色

史千 芳郎 京谷 一翠 黙巣 一雪 拍樹 八重女 春路 涼谷 椿海

梅の香やよろこぶ人の立給ふ　古橋　江戸
春雨の若葉を出す梅の香　笑語
行水の音にかくれて梅の香　宗川
梅の香や妻もうぶぬ宵の月　市石
扨花と梅と並べぬ畑の中　曙紫　仝
花色に梅より外の梅の花　陸奥
梅の香や梅の花　天年　江戸
梅の香や梅の花　扇和
梅の香や梅の花　白桂
菜種干梅の香や梅の香　曙紫
東外

雨とのこ限りぬ雪や梅の花　下毛
青目ゝ白ひてこゝの元梅の香　陸奥
此梅も去年の花咲く梅の香　嵐翁
黄ゝも来ぬ人右往往の梅　米月
四里先梅ゝ東海道ゝ梅　忍山
山の梅よ月ゝ海ゝ義の梅　文蔵
和梅ゝと梅の中より豆の月　仝
人の梅ゝ梅の傍子や梅の香　一雨
月ゝ梅ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ梅の香　仝
梅梅ゝ這入や雪ゝ梅の香　五風　江戸
天神ゝ梅ゝ形や美ゝ梅　抱儀
古峯

梅の隣の[illegible]や[illegible]の花　三槐
梅[illegible]義[illegible]　女友木
梅樹を飴屋の傘に　百舎
[illegible]の月立[illegible]　江戸　松棠
[illegible]の穴[illegible]　壮賀
[illegible]の内より梅の花　白起
[illegible]井の宿屋[illegible]梅の花　乗禍
[illegible]　ちゑめ
裏柵の中[illegible]や梅の花　仝
[illegible]の梅[illegible]　得甚
[illegible]　麻交
[illegible]　八朶

梅と共の外[illegible]　文来
[illegible]梅の[illegible]　南く
[illegible]梅の花　仝
梅の[illegible]旭[illegible]　一夢
山里の庵[illegible]梅の花　仝
梅[illegible]　陸奥　佳示
[illegible]の梅の[illegible]　季州
[illegible]　松月
[illegible]の梅の花　栗笑
曙[illegible]梅の花　仝
梅の花[illegible]　布庵

[illegible]やたちめてとまと梅の花　　為よ女
[illegible]　梅盃　[illegible]舟の中　　仝
一ツ花　[illegible]梅の蕾　　雨撞
[illegible]　[illegible]　[illegible]　　馬湖
義の梅　[illegible]　[illegible]　　仝
[illegible]の梅　[illegible]　　京房
[illegible]梅の花　　大梅
つぼの花　[illegible]梅の蕾　　永木
梅さくや　[illegible]梅の蕾　　古瓶
見てさへ人まちぬ丘の梅　　久藏
[illegible]梅より[illegible]　　仝

[illegible]梅の[illegible]　　江戸　宋丈
山男や　人まもる[illegible]梅の花　　相模　雑吟
あ[illegible]や第一の花の[illegible]　　民枝
[illegible]の青出し[illegible]梅の花　　花父
[illegible]の利[illegible]の[illegible]　　民枝
一人[illegible]　[illegible]の梅　　陸奥　碩布
[illegible]梅の花　　[illegible]女
来て[illegible]の梅の花　　宋侶
宋[illegible]梅の花　　三平
梅の花　畑[illegible]　　為よ女
[illegible]　[illegible]　　馬湖

飯喰の家や　たそがれて　梅の花　陸奥　文骨
茶菴よ　桃花　桃の花　早是
宿かり　菜の花　家や　梅の花　左城
大根の　干場　雪よ　梅の花　ちらき
たゞ外の　縄も解　梅の花　大貴
笠とも　考へ　山の梅　今
梅ゆゑ　くゝ　来かゝ　古寺の　月の影　川長
雲ながめ　伏屋もあって　梅の月　下伝　錦哉
天満宮　蒼もはる　梅の花　葛松
茶ゆゑ　海よね　家あり　梅の花　棣く
節句も　傳へ　ゆるも　焼し　梅の香　夢白

〇四五

山里の　雪踏こゝ　梅の花　松秀
よる　桃　雪　白や　梅の花　頑竜
鳥羽殿の　桃の　梅の　桂　春の花　不曲
梅ゝ　ゆる　風の　石を　写す　山家　永景
和歌　梅の　梅の　梨や　うめの花　陶烟
雑ゝ　梅の　秀　吹　色し　和川　ぬ蓬
住る　手よ　水　盈て　梅の　石苔
梅ゝ　ゆる　梅　花　山　本　梅　惟艸
ふ二と　梅と　梅　梅　梅　箱根　能化
ちゝ　急ぎ　梅　梅　梅　篠流
梅　桃　よ　ら　白　梅　梅の　思雲

紙帽子とりやぶりの芽ひ梅　廻雲
梅咲て梅もあるまで雲ぬれ　葊母
梅中を雪さく蕾さく梅の月　雄嶺
古寺を雲とうつる月のたゝく義の梅　上毛　芽九
ゆ〳〵世よ月者のたくや梅の花、　壷半
行先の不二ゆ匂ふ梅の花、　阿兮
蕾るるの傳ふなたゝく春の花　生の美
春の花と春〳〵花ぬ梅の月却て　羊山
梅咲や夕暮を雪お俊し　千之
一景〳〵て梅う者の惜う花　江戸　松井
梅咲く搗積る畠うれ　易年

俗様お菜をるるや梅の花　一之
夕暮ても往方ぬ雪ある梅の花　仝
ちゝをもちんさゝたゝるめの花　夕山
是〳〵と中入くつのうら先　呂丈
梅の赤色を祈て仏方う　常陸　南石
松さゝゆく只行ゆ梅の花　鮎子
梅の月　却て上よ新し　東止
喜八の立形う生梅の花　越後　古川
門葉も挑桜を梅の花　月石
山里の下陰も新しうめの花　芳谷
梅さゝや　隠人を望一章　雄峡

出羽 宇爲 原梅

道雄

仝

正令

仝

吟霞

常陸 五竹

尚古

陸奥 五雲

竹秋

芦月

友之

云く

仝

雀堂

仝

稲爲

仝

梅の朱欒交えて梅の巻
あらや十ゝ九ゝゝ先の巻
義しや梅の実や二月
梅ゝ舟や舟底の底
ゝめ咲て月ゝ春の庭咲始
宇め彩ゝ仲ゝ春の庭咲始
月代を利て出ゝゝ梅の花
一月ゝ梅ゝ月松や梅の花
世の世話も高ゝて月出ゝ梅の花
留所も世話ゝ来や梅の花
梅ゝて花の上処哉

宮城 一陽

一甫

梅の香家よ他人を忘れ顔　五峨
百年の白比丘尼梅の宿　云く
花盛の又傾し梅の雪　仝
挑て来る梅の先や墨の妻　三挑
たゝゝよ新丹上るや梅の月　出羽　抱琴
料理屋の又の酒梅の宿　松怒
梅うぐいすや釣とうこの空の梅　そ生
ちり果て梅よ僧はく月花　祖円
梅咲や声を覗けば只の雪　蚕浦
梅うぐいすゝゝ梅の小家哉　仝
乗馬の家毫とふや梅の宿　祖円

家〻といふ物も来て梅の花　常笠
乗るよ馬の出る起セ梅の宿　素芯
梅咲て雪の降る山家哉　孔丘
寒〻敷きよ入る梅うぐいす梅赤し　仝
梅花の又ハはくや梅の花　節之
折あるの梅雪の雪　田茅
おきゝや梅よ蔵は町　黄丈
乗るや呂を垂れくれ人　仝
家〻を梅の花や梅の花　赤葵
出ぬ川ハ家の葉し畠の梅　仝
挑灯て川よ及や毒の宿　武蔵　雪女

梅形美人毒玉に似て人のあり　玄く

咲くや梅の香　越後　蓮言

ゝゝと笑ふ蕾や梅の花　仝　蚕甫

もとかや蒼苔重る庵の梅　仝

梅咲や加茂も風雅も秋西　水戸　宝琴

梅の香や角ゝを盗れ学就式

く咲る梅の梢をしんとる松之亮

紅梅の梅一二の枝より咲るれ　東按

梅を美義と梅の咲しる花　芳水

菜の中より付てみてもも梅の色　貫齋

咲あるもあるゝゝと梅の香　ちゝ

玉和く

屠物をくるる灯のさしや梅の香　出羽　二丘

手よまれはあるも早し梅の香　仝

実芳て猪鼓軒や梅の花　越後　笑盧

咲くめの詩よ莉刻男う条　二洞

梅仲を俗しくる主や梅の花　鶯笠

梅の月をくれ松を探く詩式　巨壷

あるの本をかくれ新てし梅の月　古翠

梅咲や空実の蕾を内へ掃　千駄

蕾月よ志つゝ切て梅薫る　江戸　休圃

戸明をへ梅の匂の動くく　陸奥　庚年

梅ちるや片ゝくと紙の書　山雄

野梅

梅の花の遠き匂ひ　葉路
朝起もくやの柴を折る梅の花　仲里
畑の井に梅の花　周秋
一二人舟をこぎ寄せや梅見遊　四蓼
竹やぶと家の梅　永木
舟に梅の花や貸ふね　ちゝ
掌に書て梅見の使ひ　仝
梅の花の内や梅ヶ枝のきしる音　蚕浦
寄りやう梅の梅の花　大貴
ひるよに夢の梅の花　陸奥　仁左
先梅の在処名高や梅の花　大貴

四の休を梅の花　仝
梅の花や梅に二の梅ヶ枝よし　昨木
尖みくに咲く梅ヶ枝　斗面
寄せまるまゝ梅の一ツ咲　乙負
蕾みて二月ゝまゝ梅ヶ枝　月岷
雑もう花先く梅ヶ枝　仝
梅の梅に咲く梅ヶ枝　江戸　粗年
梅の梅に寄る内　民校
曲くねくねの梅に寄る　石苔
梅の梅や わたし梅の梅ヶ枝　常陸　清平
義こそよ白梅や比叡尾　田蓁

白梅

紅梅

梅の香に丹波の雪の降る村
雪の梅の蕾よ和らぐる気色哉
白梅やとくに雪おもたき人
白梅の新しやえの眉ふし　羽人
月冴て雪の梅に斗鍋　畫斗
雪の梅や旭出る程の蕾の底　常陸　八重女
白梅や雪の志ぶきに二つ三村　管館　雅柳
雪に出て白梅の咲く初瀬哉　警宗
紅梅やえの鉢あるに五九寸　李朝
紅梅や畑見通しに寒の梅　蚕蛹
うぐいすや梅見る村の竈　社平
　　柳子
　　旭丘

梅

紅梅や寒さにくしの色の冴
玉簾や梅の色冴うるる
梅雲や梅の雲なる雲
紅梅や利生尼を一の客　管仮
梅の花に紙の鉢の寺の庵　松東
梅ふるる寒さ寒さ柳哉　五峨
梅やくに私の梅くに柳れ　凍梅
梅ヶ谷や柴やくに梅も柳　秀竹
雪ふる柴やくに梅の梅　梅堂
歌立の柳萌つ荷作る柳　雅柳
傾城の立ぬつて梅の柳　芝葉
　　芳谷
　　稲舟
　　仝
　　木司

[illegible]柳や下ゆく水の蔭燈　下総　植蒔女

[illegible]柳　[illegible]　仲葉

[illegible]柳　[illegible]　雀堂

[illegible]柳　[illegible]　宇雪

[illegible]の田くさ[illegible]出かせよ柳　[illegible]　荷乙

[illegible]柳　[illegible]　宇雪

[illegible]の風根舟[illegible]柳　[illegible]　涼苔

[illegible]苔[illegible]の中よ[illegible]柳　[illegible]　五岷

[illegible]柳の[illegible]隣の柳[illegible]　下総　吟雪

[illegible]ゆる[illegible]近よ柳[illegible]　文廣

[illegible]の[illegible]柳[illegible]　一甫

立[illegible]柳の[illegible]　上総　文和

[illegible]の[illegible]　寛里

[illegible]柳　[illegible]　五岷

大柳　中[illegible]　[illegible]

風根菖の[illegible]柳　出羽　旭

[illegible]代の[illegible]柳　[illegible]　梅周

[illegible]柳　出羽　如光

[illegible]柳や南[illegible]隣地を[illegible]柳　[illegible]　了庵人

[illegible]の[illegible]の遠柳　仝

[illegible]柳　[illegible]　蚕浦

仝

ちからもの二月ともなき柳かな　鶯笠
行延捨てのせんさくせ中吉柳　素志
柁のなか揺れゆる柳の芽　仝
一もとは本の習ひや僧侶柳かな　椿海
壁ふる紙めつきり遠ふ柳かな　節之
舟涯もどし霞つゝく柳かな　仝
ぬれる雨を耕しもて柳かな　梅序
女し偲風の青柳ゆるさゆれ　田篁
掛ふく妻の影まて舞ふ柳かな　乳正
青柳に乗人町の雛古かな　涼谷
嘆しく種もおとし柳かな　一貝

誉しきて咲まれぬ柳かな　一樵
四五軒の立家揃へ柳かな　桐雨
立家並ハ二ツめくる柳かな　黙巣
蓄するゝもれ中の雨の後ふる柳かな　一乃傳之
青柳子宗の茶碗のふちとかな　八重女
二日月雨え出きや柳の影　桂丸
尾変まて渦りの通る柳かな　一形
青柳よしも難さり夕の月　越後 十翁
青柳の中へ流しや花さかり　宗川
青柳やふり向けば斉月根　扇巷
川上の流も隠る柳かな　仝

[illegible]の生垣より高き柳の
二里余りも長く延びたる柳の事
鶯の声よりも動く柳哉　江戸　五湖
折れも井戸の底なる柳哉　思山
一筋よりそのまゝ長き柳哉　松竹
傍に家居の気色柳哉　杜年
輪なしも枯れて残る柳の姿
鉢よりねの多き柳哉　謝堂
青柳や湾の長き九十九　杜賀
乾くなり柳の雫小雨哉　其角
枯柳の長閑なりや戸柳　其笑
[illegible]　[illegible]

大名の屋根を見る柳哉　笑語
牛の角枯れて近くる柳哉　鶯巣
民家の傍に縄手のやなぎ哉
大名の貧しかりける柳哉　赤交
青柳の底もなるる雨哉　荷丁
青柳の木々物語り四の社　粗年
陰なる枯れ川の葉の柳哉　布齋
青柳や伊勢の海の長き　白安
伊勢の一日雨降りやなぎ哉　仝
青柳や秋の他の伊勢も世あり　鳴湖
角の出て見れば長きなる事哉　大橋
下総　紙宋
民校　卓郎

故郷の風に解くるや糸よれ　陸奥 萍洲
青柳や羽織吹るゝ土手の上　三平
青柳や條信庭の外流し　常陸 よし秀
明安き朝に飛く成て柳かな　素考
直なるくせもなくて垂るゝ柳かな　幸雄
分外の花さへ見ず一つ宿帰り哉　ぬ仙
芽柳や延ひたる荒島舟　貞雄
文字をかくも見え青柳　長亥
青柳もみの中の花　永男
雪の柳の雨に乱るゝ柳かな　松原
物くさく築きけり柳哉　示水

二羽連れてきしかゝる柳かな　大梅
帯とけて心安さの青柳かな　李井
青柳や雨と打まる井中寺　文宍
舟の中晴ゐたる春や夕柳　仝
舟待に制札をよむ柳かな　越後 羽石
小雀の葉隠なかしく柳かな　西阜
稲むらに霞たるかけて柳かな　千軺
素人も柳を粂て通りけり　双二
一二軒ちりや町を柳かな　桃機
うけ答やの場所をひらく柳かな　仝
柳まで動くや夕の日和かな　南枝

[illegible]

南枝　古人

[illegible]

雨考

[illegible]

汀花

[illegible]

大貴　公

[illegible]

蚕浦

[illegible]

木司

[illegible]

陸奥　乙貧

[illegible]

乙

[illegible]

江戸　雉嶺

[illegible]

挿柳

[illegible]

上毛　菜種

[illegible]

田舎

[illegible]

貝谷

[illegible]

椿海

[illegible]

宇桂

[illegible]

赤蕪

[illegible]

八重女

[illegible]

江戸　松付

[illegible]

里外

[illegible]

松花

[illegible]

盧半

[illegible]

雉宛

椿

松の色月さへ古り苔むす木陰
古寺の苔庭根をぬけ出て古椿よ　麻文

雑日の光りうつるや松の色　八朶

四月作る醴酒や赤味さす　芳蕤

掃よせて白よ赤しも椿の卵　常陸　夕山

雲白よ彩るの椿の陰も少し　素毛

白鳥て石ひ〳〵稲る椿り孔　庭白

義よ白る陰も家の鶏り赤　陸奥　芽谷

一月もるて〳〵みち〳〵椿り赤　栗三

ちり出て椿もちく小庵ハ　木公

葉の色よ猫やタ白の赤椿　道雄

云く

一ゑまるゑ〳〵ゑ白ぬ椿の蒼り赤　仝

傀儡の出て〳〵あるよちる椿　松怨

雲也ちるよ赤ちも白〳〵椿ハ　四葉

打ち出ハ蕊の少よ赤さき式　梅堂

一ツ赤くよ〳〵〳〵わるる椿り孔　文洲

義の椿ゑ重〳〵けよ咲よ白　風石

下ちの双六蕊ぬ花赤さ式　涼谷

蕊さ出ハ程椿〳〵〳〵る椿ハ　素楪

つゑ〳〵きゑ咲て雪降山白ハ　涼谷

古鈴るハ禁ち色ぬり椿ち赤　黙巣

仝

仝

落椿

[illegible]

一 西相我
三 槐
乙 負
石 苻
川 出
鼎 湖
乙 鯛
苔 石
玄 く
雪 笠

[illegible]

八重女
世 栗
米 月
祖 印
沼 菩
東 帝
古 城
ちゝき
羽 人
確 岩
文 石

猫戀

以往の事をも忘れて猫や猫の恋第一と猫をのけて花
はなもなるべく猫の恋
うら枯猫何如はるを世間
猫徒の笑ふ方も猫の恋
丸香を中の月やうの毛猫
方船も片寄紀客猫の恋
猫の名をつくる風の止まうう
きねくのはつもこえん猫の恋
方川を中を恋やきまる猫
如きまく春よりうの猫の恋

陸奥　南山
一具　谷後
黙巣　方居
遅流　謝堂
麻交　布帥
為安　禾本

姉よ長丸さ稚うれ猫の名
呂猫ゝ猫ゝ出る里猫の恋
毎住吉河ゝ稀よ猫の恋
恋ゝ雑仮を出し私の猫
寒ゝ起ゝ方仮ゝ猫の恋
恋ゝ猫ゝ猫ゝ孫ゝの恋
世ゝ女猫のゝる丈ゝ
恋ねゝ武都ゝ寄ゝ猫
作ゝ社仮ゝ猫の恋
不ゝ寄ゝ孫ゝ名
恋猫や猫ゝ猫ゝ月

常陸　花父　三平　旭丘　不曲　万里　阿弓　月峨　笑翠　茂和　赤月　芦帆

白臭

五葉の内妻ともわきね男猫代　素芯
罠仕掛て捕るもはるや猫の恋　五峨
猫の名屋敷の内の弓祝紀　四兼
恋猫の寄るも通るも白小袖　恋水
面積の妻迄恋猫の恋　蒙笠
通ひ来て世の猫と寝上電　今
下駄足駄裏く中や猫の恋　俳南
一寸のふるさとすく公家代　四兼
ふるさとや細道ふるの他　物堂
女達の来る頃迄恋代　宗川
抱籠ふるさと根来僧　寸孤

百千鳥
鶯

ふるさとと叫ぶ斗や鶯代　湖山
白魚の縒のふるさとや切の蝶　仍菊
百千鳥山孔雀ふるさと　花甲
苔寺や面壁先や椎ふるさと　丁方
ふひすや鶯刑ふるさと　一皇
鳴ふるさと鶯ふるさと他のつめ　史子
鶯や御寺の中ふるさと　涼谷
形ふつまふる鶯代　苔孤
苔寺や古ふるさと切通し　南濤
ふひすや古ふるさと鶯ふる　桐雨
苔寺や住ふる一帝ふるさとし　一具

鶯や小首ひねつて鳴きそめん　桂巣
うぐひすの一つの梅にしまひけり　一蕙
ちつまと初鶯や神の前　八重女
鶯も一両隣の中をうらぬ　真路
鶯や余所ならも出来ぬ身の振り　桂巣
うぐひすもこゝで面白の不二の山　一蓋
鶯やまだ子旭の古紅梅　妙子
鶯や都気をきゝゐる庵の陰　才居
うぐひすも呼れ出ねけし薮や日の当る　十翁
鶯もゆくてる所や餅米ひ　也桂
鶯の初音子に出る枯木かな　巨潤

鶯や花精あつらん塀の外　桂巣
鶯や行雁くゝる雲の翼　越後　一の英
風吹ね里や鶯がもきて　仝
鶯やちゆんと子供の襷手　桂巣
庭先や鶯杉を下りて鳴　紫扇
鶯も鳴る森の梢かな　松竹
鶯れ侍や二羽よりて二羽ならし　抱傑
うぐひすの初音や新き返して立　大管
鶯や尾鳴きよく新の音く　古峯
菜種在て鶯鳴し根岸式　何年
鶯や呼れも作ね舟の側　麻丈

荷月
八朶
仝
有く
一夢
仝
栗笑
呉洋
布彦
為よ女
仝

江戸
明湖
氷谷
久臧
禾木
宋丈
民枝
頑布
文胄
曰人
幸雄
ちうき

[illegible]の夕[illegible]
黄[illegible]
[illegible]の明[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大貴
旭丘
菖蒲
仙
震翠
松秀
仝
松宗
雨明
花甲
芳蕤

[illegible]の声
[illegible]おの[illegible]仏
[illegible]山路の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]二声目
[illegible]の[illegible]
[illegible]紫を[illegible]
[illegible]
[illegible]の上
[illegible]
[illegible]
[illegible]

木司
瓶乙
雄宏
改[illegible]
石苻
乗水
昨木
九[illegible]
松和
二丘
市山

鶯に鍵さゝれり茶の出花　笑盧
うたゝ寝て黄鳥飛く小雪かな　西阜
黄鳥の声や前に去りけり　一陽
梅に鳴鶯包に笑ぬ花　一田菊
雨の日も黄鳥や去り竹の色　一陽
鶯や小庭飛く垂にけり　一幸
芽郷にて鳴鶯や一里深　深月
黄鳥や松所て近よ夕の声　子菘
鳴さうな鶯ふりたる鳥かな　双二
鶯や何処ぞかく其初音　文渊
鳴かぬ時来て鶯も肥てけり　桃機

鶯

黄鳥や採り分け若へ引し立茶　葉路
鶯も小白陰ん出ん茶の木尺　禾木
鶯や声も夕に花ちつとの間　蚕浦
鶯を迷ふありく菜漬尺　吟鹿
うぐひすや小掃除き帰り道　仝
木槲や鶯鳥屋に又八鶯の鳴　涼谷
出て鶯山の奥より来の帰　布摩
鶯鳴や茅鞋の見ゆる墓の土　多よ女
うす鳴や紙粉の下く梅の梲　民枝
峰へ去れ橋抄井姉し鶯の声　ぬ蓮
鶯鳴や約瓶子傳し山の乳　枇鳴

雲雀

[illegible]の門辺や雲の声　笹飛

[illegible]もあまやかさよ雲雀の柳より見る　雨竹

舟の艪の梅より柳やや雲雀　桑郭

[illegible]面や雲雀の鳴通し　天山

月代の刺人よりしら雲雀の鳴雲　一具

見[illegible]てしらしらと見安よりそれ　里丹

[illegible]喰らひおの気[illegible]人[illegible]ば　面女

川橋の[illegible]も[illegible]雲雀　日人

大[illegible]の雲雀岩[illegible]る下四[illegible]　貞雄

[illegible]の[illegible]を[illegible]千[illegible]丹より[illegible]雲雀　松秀

[illegible]橋より[illegible]雲雀も[illegible]橋の上　[illegible]

[illegible]　弘

[illegible]より[illegible]雲雀

[illegible]の[illegible]雲雀

[illegible]の雲雀[illegible]を遣より[illegible]

陸奥

[illegible]面[illegible]仕[illegible]柳雲雀　政秀女

[illegible]ちら[illegible]も[illegible]雲雀　荷己

[illegible]柳の中より[illegible]雲雀　嶽洋

[illegible]の千上り雲や柳雲雀　汀丸

[illegible]も[illegible]雲雀　柳美

[illegible]の[illegible]より舞[illegible]　芳谷

面[illegible]日和も雲や[illegible]雲雀　涼蔀

[illegible]雲[illegible]も[illegible]雲雀　梅宵

[illegible]　寛里

今

[illegible]　旭

麦圃の二ケ所蒔下ろす雉子
て我のぬけ殻廣し蒔雉
言ひよ鳴く廣野や春の初
春ちて色て雪の上や時雨
屋の棟〜一茶
戸口の一隙ちて柳雉
大雪を蹈ちる武
性急ち生ち人ち雉
地の烟霧ちく立や蒔ち
近ちや雨ちて柳雉
東ちや雨ちて切ちて時ち

雪笠
蒔ち
仝
四蒔
吟霞
大費
芭角
四時
山雉
雉ち
蒔ち

駒鳥

雉子雀ちて新緑下ち蒔ち
弱ち時や蒔ち一の谷
笠ち雀て色ちく色ち弱ち蒔の雪
生ち迷ち俗ち弱ち蒔の声
弱ち蒔ち蒔ち雨ち山の雨利
時ち蒔ち新の林ち蒔ち稼ち
ち雨ち蒔ち芭ち烟ち
雪ち蒔の袖ち入ち時ち色
連ち蒔ち時ち雪ち蒔の赤ち
日の出ち一息生ち時ち雉ち雪
生ち蒔ち雪の蒔ち色蝋ち

吟霞
芭雉
樵海
風仏
芳蓋
小圃
抱儀
布席
蒔ち
宮桂
雉嶺

蜆

蛤

海苔

雨芽　芭角

梅空　一の英

遅休　仏聲

布帛　万里

星山　梅宇

幽谷　友樵

御惡

節之　ひさ雄

一蓮　毋安

菅牧　一甫

江戸　氷弧

武藏　仝　吐香

陸奥　梅僕

類題十萬句集初編春之部上終

類題十萬句集初編春之部中

洞海舍凉谷編
一貝菴一貝校合

二月

稽首と旅人くる二月哉　雄嶺
ちらちら雨降て雨降も二月哉　茅九
四の天子雲の南くに二月哉　江戸　片しよ
茅戈の庫程こそ這の二月哉　凉谷
山角よ連て行ぬ二月哉　左秋
分茶のかくもし蕎麦二月哉　涯美
山よりも天よ秋よ二月哉　荷堂
蕎麦屋へ雲ひく二月哉　椿海

衣更着

鶯や種子蒔する妻も二月　雉周

反故も八まき〳〵拙さん二月哉　一之

二月とも別れて待るゝ雪の花　文里

なよ〳〵の桜しと安き二月かれ　菟葉

手紙にも雨のをちぞ二月の花　秋臺

乾鮭の下盤抜出ん二月の分　武蔵　若月

めの月や村雨てきえぬ人の原　徂好

花さくや柳條の庵しさ月見　宗魯

物書くやめの月の用意うれしさ　文廣

めの月や角力の名し出羽紫　凉谷

月を待々穂の松嵐やす入日かれ　鳳石

めの月とに人へよしの月の田畑をかす　湖堂

枕元の安いや大川はゝ遠山の雨　布席

旅人なやさや森ふよりも鈍仏　角子女

月待つ家や来の宮待ちもてる梅子　下毛　星谷

めの月や田川のまの小屋見ゆ　鳥湖

二日灸

梅の根のおう乗白気二日灸　笑顔

猿猴にこうは二日乳灸の跡　布席

二日灸風の鶏鳴くの種子つき　田葉

初午

初午や幕の中の月の松哉　凉谷

雪の月年もよう見川の手代　栢樹

初午やおとしの大般若　甘楽　一甫

旅宿や宿れば初年とあるる　月峨
初年よ持ひこ所れ世をうれ　乃草
さつ年や持ひ人の寿ぐ義中尭　大梅
初年や物の少家を祈岳寿　素樸
さ庫年や寿紙ぐ安演所　松秀
初年や紙所ぐ来物ぬし　万里
さ庫年を一里係ぐも儀ぐ寿　子是
初年や庫ぐ〜の人詰　道雄
栄ぐ庫や初年ぐ伝容　梅宇
さつ年や小宜新ぐ原の刺　云く
初年や年さ絶て身角カ元　公

春月

初年よ石撲の寿年の月れ　二丘
梅の赤よ持ぐし寿の月れ　苔水
山もよ〜持もよ〜寿ぐ月も注　夕山
ぐ寿れ四よ傳さ庫月れ　山笑
家寿ぐ宜て持ぐ〜寿の月　素ぐ
祭義の庫さ新ぐ持よ寿の月　葉月
夕寿の赤ぐ〜孫ん寿の月　月下
寿と吟月ぐ光ぐや二月月　芝葉
振袖の吟れ月や寿の月　桂菱
裸ぐ一月ぐ新ぐや寿ぐ　芦帆
寿の月寿ぐ〜よ寿ぐ祭り　芦月

人事を考へあとやまして夏のく
夏の月 一日うるる雨の上
出生寺にて懐の二つ夏の月
船宿へ 伝うし 柴ね花の月
まるのうと 鉢瓶より上り花
一面より 眺 こんぬや 蕎の月
何とも 考へ ぬも 考へおや 春の月
群〳〵 と 初 閑 庵 花 春の月
山〳〵 と 夏の 暮 や 蕎の月
ちる山 寺より 雑 寺 ゆ 蕎のく
紙〳〵 思 ゆ より 休 〳〵 蕎の月

素芯
横海
皮之
仝

下伝

涼斎
西合
文廣
雨花女
一甫
梅庵
秋臺

屋敷の 角 より 戸口や 夏の月
氏神の 拝殿 ちらし 夏のく
蕎の月 大きく 赤 ゆ 花く花
本村の 宮 宮 ちる 春の月
祖 翁 の かく 門 庵 し 蕎の月
家 つ き り 墨 に こ る の 月
築 梅 も 傳 〳〵 接 ば や 蕎の月
弱 人 の 屋 る 蕎の月 秋 武
空 清 く 町 〳〵 花 蕎の月
蕎 の く 軒 の 梅 ね 町 屋 武
ひ く ち ひ の 痛 も 元 毒 蕎の月

節く
田翁
昨水
秀付
里房女
休園
月岷
涼谷
一楼
妙子
古橋

雪の月　松付
小松ぬきの雪の月　立風
石門寺の雪の月　千翁
俗の雪をとりてうるや雪のうく　其紀
山と海の雪うり入ぬるの月　麻交
岩のよう佐くに出うり雪のうく　川長
雪の月　紀之子出れを雪　爲女
壬生寺の雪の月　鼎湖
笛船の時雨の雪の月　薄湖
強ふさ雪人を雪うり雪のうく　立光
雪の月　京時雨ぬ　鬼郷

雪の月　屋の角の立処
徹の高き雪ひやうく雪の月
墨ちよう葉伝来うう春のうく
ちの雪の子ぬ雪うう雪の月
照ぬ雪うく板の雪うし雪の月
旅龍屋の雪ね旅うく雪の月
石和ちの雪ける上うう雪の月
雪の月　芳雪
七食の雪変こうる雪の月
陣る家を雪ぬ味時うう春の
山里よう新雪もみて雪の月

武蔵

古武　雁山
篠山　雁堂
篠流　李朝
起雪　如旭
祖甲　羽公
南く　居壹

朧月

杜貧　陸奥
桃機　作
田英
古翠
風石
岩水
甫山
文角　常陸
甫山
石竜

朧夜

芦月　筥雄
棄二　笠雄
寵堂
一甫
正令
蓼星
田茅
雪付
民牧
異李

春夜

三日月の西を撫のたもとあり　李庵
繕ひの音〳〵利根川の系　お機
撫形や蛍ん〳〵山は寂つゝよ　庭雨
蛍の形や博の松さへ蔦みとり　丈水
たゝの形や汀の家のちらさへく　朗湖
春の形や門戸うたし庭杉　久藏
蛍の形や難波乗御と船よ寝て　貞雄
たる孔雀を使ひ〳〵竹よ仰る式　常陸
蛍の形や蛍の弱み仰る声　昭眉
蛍の形や儀の面り帆の光　下総
たるの形や形の初〳〵人をとる　一南
　　深月
　　李朗

春宵

初雷

行燈を出〳〵井や蛍の宵　素有
初雷や急ぎて寝る宵とよ　子格
雷ぬきよりつゝ雷の光ゝ系　江戸　ちゝ女
鳴止て初雷ぬ鳴こゝ邪　蛍郷
古鐘や古伊雷の後をつく　有月
杖つゝ初雷や風呂の中　壮賛
角屋ゝ古代雷と古毛竜　仏蛍
出代や昭あるゝ延ちゝ　荷了
出代や保傳氏手孔金変　下総　為女
出代や蛍ひ陽る哥の屋　寿池
出代や兄弟あゝ伴歩条　祖阿

彼岸

出代の芝掘る人や彼方まで　常陸古人
出代よ一口よもぎん　摔　弓　呼友
出ろうや先手槌の軍　芦帆
お代よ本の名を呼男うれ　芦月
山代の志ろ人ふしみと毎　蕉雨
出ろうや森を居るも嬉き　仝
出代やうちの亜麻蹄しく　青校
荒畑の大根ちさく刈れ　草野
町内の木戸建替る彼岸ぶ　夕山
蒟蒻の玉実る出ん方ぶ　呼友
伸まで近く荒し彼岸ぶ　鈍平

ちまうる梅ぶ刈ん入れ　芦帆
蕗の芽のちまる市ける刈ん　五呪
家一軒一物売ふる彼岸ぶ　正令
彼岸と併よ梅ちる夕雨　素志
蕎麦畑見ぶ刈ん　二丘
彼岸ぶ好ふ子作や焔魔堂　美文
船売ちまを刈ん　春浦
屋根葺の男ふ居ちる彼岸ぶ　鈍平
ふ鉄ふ旅人ちまる刈ん　曽俊
川越よ鈍を係る刈ん　一甫
雪作や彼岸寺の人の母　仝
　　古城

涅槃

四月十五日人の出て来る涅槃式
俗にこれを俗に五月孫三人像　一　貝
涅槃会や手に手に白き蓮の雪　仝　雄嶺
雪ちらし花遅れもあり涅槃像　黙巣
涅槃会や火燃し炉の煙の星　出羽　椿海
月とるの明るく孫三人像　高安
涅槃会や足弱連て濱伝ひ　石苻
撥伝ふ風の上る孫三人式　斗筵
孫三人像高き香の堂うれ　咫雲
橋守の蒙古襲来撥ん孫三人式　貝谷
蒙古の社市に撥る涅槃式

西行忌

水口祭
田歩
畑歩

宿なくて又乗出る孫三人像　笛谷　一　南
涅槃会や人を待たて切畑芋　下総　一　笠
人の寄の美しまるや孫三人像　陸奥　南石
手にとれば休しく来や涅槃像　石上
其中に孫三人鳥や孫三人像　家付
乃達に俳句や西行忌　石上
雲の光の墨絵ゆるし忌　小園
石も寄る初の山の雪　旭丘
一枚に孫三人の田歩孔　雁笠
帰帆る孫三人の祝孔畑歩　妹笠
畑歩傳に歩く墓の雪　二丘

初虹

春日

畑打や森物ふとる秋の山　陸奥　菅牧

島打や何うきやうの舟　一甫

打なう桜の雪畑うなる　雪義

畑打や神風情雲稲荷宝　南翁　一元

島打連行雲雲武蔵　皆蒙

るる岳よと畑打や坂の口　大梅

背戸畑や去年の雪の水作　不曲

さつの軒の蹄うなる山　栢梅

初軒や赤の男の船うな　有月

通しの寺の宮乳雲武蔵　天山

山内の並木物ふる春日武　多吉

春水

牧きてしまの雪の武蔵

雪の多や中の雪の寺の春　里竹

寺の春の雪の多の武蔵　雪蒼

夕雪を休しの物や雪の水　里竹

戸口やく刺の雪やさるの水　平蔵

母打ねの子の休しる春の水　蔵之

兄ておやこ去移や雪の水　涼谷

旅雪の細流や春の水　相系

柱の中よ雪の雪の水　栗笑

村末の宮年の雪の雪　多吉

凡情の一変去やる雪の水　陸奥　全

雪人

春海　春川　春山

竹の形や寒の水　宮俊
寒の内雨ぬ家を家ぐ花　一甫
さる蛙水動くを聲の後ゝ　一具
佛ゝと赤くて春の雨　素蝶
小原女の草鞋佛や寒の水　羽人
寒の内草もよろ雨佛毛花　篠山
菓物の及ばぬ花の海　竹兮
愛とふ佛赤ゝ春の海　一笠
寒の川鶏の花先ゝ咲ける　キ山
辻ゝも古井ゝ寒の内　風石
赤牛の霧ゝ濃や寒の山　宇雪
深自

春空　春雲　初花

鶏の鳴く先ゝ寒の内
石切を抜ゝゝゝや春の山　一風毛
蕨ゝ咲る雨や雪の山　一夢
寒の空ゝゝ先ゝ切ゝる毛　太峯
学の戸や行雲を見ても寒の雲　如蓬
捷やゝゝ移る寒の雲　大梅
初雲を捻もゝ乗り車春　二洞
ゝゝ巻や解ける朝の五六尺　光琴
初雪ゝ降る空社雪積ゝ　梅宇
ゝ雪や母の内ゝ出寒生　五峨
初花の夕南風尋る一人ゝ　大梅

初櫻

本村の古佛や明る雨の中　交
初雪や情出しく呑る茶　抱保
よろ打よ通りて初ける　照雪
月ちらしく雲の一ちら櫻　英山
初櫻櫻ゝよ出しよ出しよ　信爲
ちらしちらして来ゝ申聲も隆　阿波五郎　初櫻　雪泉
肩の張ゝ孫々ゝ初ける　月峨
系ちらしちらの白や櫻　爲よ女
菜色色社櫻ゝ蝶ゝ初櫻　雪池
櫻も来ゝ打ゝ月や初ける　五臺
初ちらしちらして山の雪　一元
　　了庵人

糸櫻

接木

接穂

岩先の明り鮮や糸ちらし
佐賀よ形ちらしる櫻木代
櫻木ちる人々よ似ちる色
惜ある社業よ人ゝ櫻木代
白の目を所ゝ櫻木よ第色
あやまて小刀ゝ櫻穂代
能ある所ゝ櫻穂代
家ある家ゝ櫻穂代
佐賀ある手元ゝ八月
岩手ゝ工夫の手元代
先傳の保切ゝ櫻穂或

爲安　龍来
英山　麻交
昇湖　杜年
堅栄　愁栄
五風　民枝
大貴

挿木　苗代

風吹けば人の動く様接穂かな　羽人

猶誰の力をたよる接穂かな　羅周

試みに挿し木継ぐ人や嫁と娘　江戸 耕雨女

苗代や鳩も来て見る舟渡山　芝葉

苗代に映る古代の古葉かな　玄々

あらし吹や神の鳥と思ひけん　仝

苗代や見すく繕ふ加減　竹岫

あけしふや水はもしの田の種　てい女

苗代やかゞみ込む声の年　桂芽女

苗代の黒き所や山かゝり　源谷

苗代や一隅持る古尾根　大貴

種卸　菜花

麦ふる小唄やうえて種おろし　麻交

菜の花よかくれてうる小歌かな　萼荘

菜の花や茄子の苗代雛まつり　皆彼 雨明

菜の花や糞積舟の忘れ皆　不曲

菜の花や何所の在家の里近う　松秀

菜の花や入日静なる丘の家　羽人

菜の花や裏摺する乳母の家　川長

菜の花やふらふらのつゞき続　ちうき

つ向の菜の花見込み麻布かな　了是

菜の花やちらし来ぬ菴かな　越後 蕉古

菜の花やあくるも利の寺の町　素蝶

菜の花や海の内なる月の出　白女
菜の花や高く香のある月　白雄
菜の花や女の髪の乱れ　麻交
あれたやまこと生る拍子花　香園
菜の花や名を紙屋の紙作り　柏樹
菜の花や子人の内の人の詩　江戸　斗米
時ならぬ小七菜の枝くれ　稲洲
菜の花や白きよりなる乳の懸　仲妹
あり花の咲や畑の道　うり　龍琴
なの花や刀根の川原の一後よ　道雄
生ひなる菜のもとを交る男の名　仝

菜の花の中に通るや古屋敷
あのもの　あのもの　あのもの　あるものね　杉と屋
菜の花や月出る　厨　もの　もの　歳　曽波
なの花を八重よ咲くねを恨む
なの花を屋敷　なる　林　子
菜の花や　つく　這入　松　馬
なの花や　義　つ　畑　る　崖
菜の花の時をまつ　山の　れ
なの花よ今　行　人の　花
あの花や　祇　る　菜　出　花
菜の花のき　祇　る　高　祝祇

雨花女
菜畑
双子
赤蕪
龍来
双二
竹子
斗園
四明
垂浦

大根花　一雁　[illegible]

虎杖　[illegible]

早蕨　素考　宮崎　面白　易足　陸奥　面白　素芯

蕨　[illegible]

初蕨　[illegible]

一概に　[illegible]

山[illegible]　[illegible]

獨活　[illegible]

蒲英公　二丘　[illegible]

麻蒔　[illegible]

種芋　[illegible]

杉菜　[illegible]

菊根分　[illegible]

菊苗　菊苗や人よ寄まね仏のり　雄嶺
芦角　炊師の二股くれなゐの角　八朶
芦芽　若芽さらや秋のさらし蓑も雪　丁志
葛芽　葛の黄ゑ秋の心のうらうら　龍来
竹萌　形先の出来ぬるわや学落る　椿海
蘇縷　松越さ蔦る雪も消し学もえる　謝堂
春草　月まるの心のうらうら春さらく　秋蔓
　　俊寿も雪を抜て色の学　蓼笠
　　夢の舟持く学を学をうれ　庚年
　　菴の物学を母を雪と来し色　古川
　　学の焼て廣るや夢の舟　笑壷

畠焼　焼ねの寄ら山まれ荒畑　布摩
山焼　山焼の明るよ儒や古社内　多ゑ女
　　焼く山のうるる伝や学鞋うく　椿海
　　の焼の山幸ひや伝の船　道雄
　　天氏の湖紫ゑ山もやく　雨考
焼野　月新ゑ小寄る社乃寄る焼野氏　蜀翁
　　会ねうしうる寄るうる焼野氏　芳月
　　焼の東寄ゑ加ゑ世あうう　玄く
　　山雲ゑ人うう焼野ゑ東　巣乎
春野　伝生寄の智義ゑ蘇る寄寄氏　惟州
蘇　　義の先うゑ学や波や擦　狩巣

下総

[illegible]の硯[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]より到[illegible]
[illegible]の栗より一寸[illegible]
[illegible]も四合より[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]や[illegible]
栗[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]や四五里[illegible]

谷後
一具
涼谷
古橋
椿山
大笹
八朶
布摩
[illegible]
了是
幸雄

[illegible]簾上[illegible]
[illegible]の[illegible]
五六[illegible]
今朱[illegible]
[illegible]
物干[illegible]
[illegible]の[illegible]
巣を[illegible]四方[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]谷の[illegible]

[illegible]
陶烟
積翠
[illegible]
[illegible]
呼友
道雄
一南
名村
[illegible]
素志

梁より海の稲つて鳴り乱れ　子格
芳徳中講を傳る云々　こゝ女
面影や　悉く十本の蘆　古翠
蘆の中　一人残る釣船　竹里
云々や　つゝ機へる庵の門　蓬宇
谷々や　小山を残る時し　抱像
岬見る　走りうつる　きゝの声　遥傳
鳴かれよ　雑子の出て　秋禁うれ　嵐齊
鳴り　荒屋の寒　あゝと　ゝの色　有月
夕　葉尾も　命　雑子の声　月悦
矢を　雑子　夕　老　松巣

山の　雑子の　切　飛　大物
雪の上　見　雑子の　羽　三平
岳　雑子　や　ゝ　の声　了夏
雪の　雑子の　雑子の　大貴
三尺の　の　の　秀　徐哉
雑子　雑子の　雑子の声　不曲
雑子　雑子　雑子　雑子　雄嶺
雑つの　雑子　雑子　雑子　一具
代々の　雑子　雑子　雑子　野巣
一畑　雑子　雑子　雑子　抱像
里　雑子　雑子　雑子　角枝

おもしろう鳴やうぐひす　市石
きゝ鳴や枝より高く山ひくし　昭眉
夏ゝ中曲寅の鶯や雞子の声　稲葉
野ゝ出ゝ今夏山の遠く来　常陸　有山
山ちかや厠の下ゆきゝの春　宇雪
鳴物と浮き鳴うゝ雞子の色　道雄
伊先きをゝもあかさて雞子鶯　仝
あの白ゝお於ゝ雞子の声　尚古
雞子鳴や戸開ゝ出ゝ山ゝ　南部　英市
きぬゝの春曳ゝ元きゝの声　一好
古竹の庭より雞子のわろゝ　云ゝ

鶯の雞子ゆゝ出ゝもよみゝよ　仝
鶯きゝよりタ和の春を笑ゝ　春園
雞子鳴や今鶯ゝ竹の色　秋雲
きゝ春ゆよりと弦出ん地ゝ　四美
鳴ゝ山の雞子鳴やきゝの声　梅花
雞ゝ山弦笑ゝ鳴やまゝ雞子　警閑
雞子鳴や岩根の春の行ゝ　不得
月夜ゝ弦出ん雞子のわろゝ　貞庵
里の雞子笑や朱ゝ春ゝ　ちゝ
ゝゝ春ゝ元雞子鳴　雞用
今鳴ゝきゝと遠ゝ生ゝる雞子　四明

歸雁

[illegible]の古戦場　江戸　伯支

[illegible]雁の声も[illegible]

[illegible]の人拂　伸女

[illegible]の雪も消[illegible]　蚕浦

[illegible]　芽谷

[illegible]　尤平

[illegible]　水公

[illegible]　涼苔

[illegible]　一陽

[illegible]　巨臺

[illegible]　禾木

[illegible]　鹿古

行雁

[illegible]の[illegible]の軍　羽人

[illegible]の物[illegible]　黙巣

[illegible]雁　東樗

[illegible]　玄〻

[illegible]　仝

雁別

[illegible]　素芯

[illegible]　千之

春雁

[illegible]　越後　雄嶺

[illegible]　三桃

[illegible]　休圃

[illegible]　乃菫

春鳥

親雀

雀子

[illegible]の[illegible]笠[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]町[illegible]石[illegible]
[illegible]母[illegible]
[illegible]
[illegible]

栗雀　梅ちる枝や栗雀の形　二紅民枝

雲雀　雲雀や朋の句を聞く　丁雨

雲鴨　行や鴨芦ちる水に糞ス　永谷

鳥巣　鳥つく巣ちる雨に巣を忘れ　素芝

山つく巣ちる雨に巣を忘れ　素水

鳥の巣や梢朱鷺し美しき　布席

鳥の巣や梢朱鷺し美しき　江戸　露堂

鳥の巣ちる雨に巣を忘れ　菊蕉

巣の鳥の釈子梅の上　丁巳女

今ちる雨に巣を忘れ　伸女

巣の鳥の釈子梅の上

初蛙　初蛙や梁や初蛙　蓮平

初蛙　初蛙や蓮の葉や初蛙　芝雄

一四位の蛙の蛙　素芝

初蛙　初蛙　菜路

蛙　蛙や蛙の葉の木を絶えず初蛙　多女

蛙　蛙や蛙の葉の木を絶えず初蛙　多女

凡切も雲の戸や蛙　仍蕉

蛙　蛙や蛙も一枝二枝の葉　雄岩

蛙　蛙や蛙の葉の木を絶えず蛙　一之

蛙　蛙や蛙の葉の木を絶えず蛙　素月

蛙　蛙や蛙の葉の木を絶えず蛙　友之

蛙　蛙や蛙の葉の木を絶えず蛙　无琴

川蛙を雲の蛙や蛙の葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四一枝小庭よ市しや鳴蛙　天山
あ〜蛙あちこち白くる菜屋敷　月峨
菜そや蛙よけく〜人の飛　子斎
鳴あちこち鳴〜蛙花菜の上　三槐
井の内〜そ〜よ国や蛙鳴　一雅
鳴を聞て於鳴よ朱や赤く蛙　白起
菜畑て鳴こ内この蛙の於　雲竹
身長き体春内〜の蛙代　市彦
夕暮き仕ものや鳴蛙　為丸
四て鳴けい義こも鳴蛙代　斗延
必ひきるなもて鳴蛙　旭丘

蜂

蜂巣

蜂ねむ〜一ぷく鳴蛙代　霊峯
刺ともきい蛙こ　鳴花菖蒲　夢白
更こ蜂大世界こ鳴こ代　不曲
蜂面よ霧ぬきを柄う鳴蛙　白蓼
郷〜よ林末ぬ〜蛙〜蜂　不苔
本村の乗の穂雪や鳴蛙　谷後
赤蜂をと後を鳴こ蛙代　文東
鈴こる鳥こる軒の内こや蜂の色　杜子
釈あ〜や子何や蜂の巣こ蜂　一甫
一ッ出て又ふつ飛や穴の蜂　陸月
蜂の巣を松蔭と見て花　雁蛩

蛇の巣や おの地蔵堂　梅関
蛇の来てくんちゃや 物の陰　布席
蛇花や 子の泣ろ 雪降る上り 蛇　蓼静
ろ 花を乗 蛇　小園
芸豆や 蛇の出 大仏堂　塚谷
蛇の中 古墓 くんて来 蛇　仝
蛇 乗 乗 蛇 蛇 蛇　陸奥
傘 蛇の出 蛇 蛇 蛇　東嶺
蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇　山交
蛇 蛇の 蛇 蛇 蛇　東野
蛇 蛇や 蛇 蛇 蛇　一雨
蛇 蛇や 蛇 蛇 蛇　仝

蛇 蛇を 乗 蛇 蛇　月城
蛇 蛇や 烟 蛇 蛇 蛇　梅白亀
蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇　其笑
蛇 蛇や 蛇 蛇 蛇　乃葉
蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇　麻子
杉の皮 蛇 蛇 蛇 蛇　清水
蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇　栗笑
近 付の 蛇 蛇 蛇　布席
蛇 蛇 仏壇の 蛇 蛇　南女
蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇　民校
蛇 蛇や 不二の 蛇 蛇　陸奥
蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇 蛇　写年

式部よりの歌に於て蛙哉

蛙とふや庇を並べ洗ひ竈　大貫

おもしろや蛙の聲の小柴垣　葛丘

大船の沖つ出るよ蛙の聲　棣く

出るを禁けり蛙騒しく　雉尤

初蛙や面のうるる海鼠中　石苻

蛙の鳴く　蛙の鳴く　蛙の鳴く　蛙の鳴く

枯芝のまく枯るや蛙の花　田家

芝よりも蛙の花　星川

蛙とふや花の上を行く蛙も　松月

てくとふや面の芝の針仕事　半丈

蛙〳〵や傍に来る桶の底　貴谷

てくと飛や蛙〳〵小雨も　稲茂

然るに蛙まく蛙に雨の降る　木月

蛙とふ新を沙汰と宮〳〵　芦舟

蛙の面の芝を〳〵に　玄子

てくとやふ面一日　雀堂

山椒の芽を慎て来る蛙　斗玉

出羽

追ふて追ふて追ふて来る蛙　玄く

蛙〳〵よりも和さ〳〵　仝

蛙〳〵よりメ出さ〳〵伊勢の名　田菓

庵桶の袋もて蛙やとふ蛙　仝

蝶蛾　雲俊

てふ鳥や雛の小懸を塗籠め　双之

追ふや人よ行きて戻る小懸　ちゝ

雲ゝゝも和らぐ春の懸　キ山

鈍まれば一変よ休て蒔家懸　等郷

鈍ふ蒔の屋根に於て弐　丹園

懸ゝや高山ゝ懸ゝ侍ゝ　糸木

懸のてゝ鈍来て布よ簾う鈍　梅房

蛙を為るゝ月よ田懸鈍　古翠

松山よ鈍て一変ゝ田懸弐　芝楼

世ゝゝも中ゝ鳥見よ田懸妻　眠木

田螺　茅井

鹿落角

鈍よゝも春の知よ田のゝ弐　有一

蛙月や田懸鈍て春の色　掛鳴

芝元よ花ゝ鈍ぬ蛙ゝ角　角ゝ女

春嶮よ出て蛙ゝ元花の角　大貴

鈍ゝる所よ行ゝ全蛙ゝ角　玄機

月仙の多蛙ゝ花の角　量山

鮒鱠　田一牧寝ふゝ鳴や鮒鱠　椿海

鳴ゝゝも春ゝ元ゝよ行の鳴ゝ　名俊　素封

ちゝ鳥やり蛙ゝ春ゝ　仝

芋の葉よ鳴ゝ鳥ゝ雛二対　仝

[illegible]　豪封
[illegible]　仝
[illegible]　笑侯　慈生
[illegible]　仝
[illegible]　仝
[illegible]　仝

類題十萬句集初編春之部中終

類題十萬句集初編春之部下

洞海舍涼谷編
一具菴一具校合

三月

孫生

三月や[illegible]　大梅
[illegible]　應雨
何[illegible]　文洲
[illegible]　キ山
[illegible]　笑侯　一南
[illegible]　雞園
[illegible]　蔦水
[illegible]　汀尤

雛

雛さまの人形の切刻　夕山
芝の浦地蔵の堂や新茶漬　芦帆
芽ぐみ出る柳の糸の新芽　古の女
入れよ雛の形紙箱を夕空　文和
燈火の新しく祝ふや雛の白　云く
お市様雛四人揃ふ山家哉　仝
四つ子も四つと泣いぬ新茶哉　芎笠
雛の日伝へ聞くや京の町　越良
芽ぐみの祝ふて歳ふる新茶哉　文鵬
雛市や買ひぬ袂よ小人形　昭眉
雛の形の古びよ新しく住哉　芭角
　　石上

手習ひ始めくの手跡や彩の雛　一具
雛の宴よ初茶の時や古仏壇　仝
並べて古き雛の形　和琴
法師よ人形市の雛　一雅
物ふるき人の香ふる孔雀哉　仍菴
雛を買ふ自粉の紙のこうこ哉　麻交
市の雛ふる月とは森ぬ白梅　布摩
法師と初茶宴の燈の孔　面よ女
手家業お姫の料理や雛祭　仝
雛も重雛も重桜の上　天年
ふるき雛の夕ふる　久臧

雑合

桂程　川長
大貫　羽人
宮弘
惟孝
篠伝
二晶
雄嶺
田兼
三掛

汐干

芳谷
玄く
田兼
[illegible]
[illegible]郷
[illegible]芯
[illegible]
[illegible]
有自
伯黄
麻交

春霜　　水谷素檪

別霜　　斗筵大貴

一雪より雖の出でしより春の霜
冬の舟にて魚吞ぶ子の霜
澤川を池まで面像を形式
雪ふる迷の霜にて殘る沙子の霜
人影の松にも松を沙子の霜　　松秀
火を男　松にも出でし沙子の霜　　永字
志ゝ梅とにて人元来の霜　　戒注　文鬼
松霜にて老の夫婦や春の霜　　美文
夢にて起猪の形や松にて霜　　茄子
宮中の屋梅の形や霜　　戴星
菜霜にて二雪霜にて別霜　　斗玉

桃

千柿の味方にて春霜
舟にて沙子る雪や霜
桃の多にて雪の霜
形にて春る桃や生霜の二月　　常陸
被霜にて霜の文や桃の霜　　龍陸
色祝形建にて三月の桃の色　　文富
出好龍の形を脫ぎ桃の色　　蕪水
霜にて舟の霜の沙子の春　　素白
刀霜人も形の中にて形の春　　素有
桃にて中文桃の屋中色　　宇雪
鱗の祝方にて桃の色　　色雄

万葉集に桜の花の盛りを詠めるもの桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

新古今　桜花散りぬる春の夕べかな　二条院讃岐

伝く　桜花散りぬる春の夕べかな　藤原定家

山家集　桜の子　雲に咲く桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

伝　桜花散りぬる春の夕べかな　西行

上京の白雪　桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家　雲く

二泊　菅郷

今　西村

東桜　云く

庄屋　谷後

天山

前堂

櫻

桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

屋根　琴弦　燈籠　桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

舟　傳　彩　桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

桜　桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

家　桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

家　桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

本家屋の桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

一傳　桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

桜の花の盛りに逢へる人桜の花の盛りの林の中の家

貫　紀　桜　幸雄　万里　旭丘　椿　傳　丁岩　史子　小園　堅　栄　枕　像

よの形や朱をぬりたる櫻
竹のもとのあるじ櫻の木の芽哉　雪象
庭にちる初午ぶくれ咲よりも早
蕚にもたくさんなる本の殘る櫻哉　三槐
世をもと形をもとひのさくら哉　八朶
後ろをくくしたる本も櫻哉　横尚
散櫻や赤子ホトケよ蕚初る　久藏
櫻ちるるくくめぬ種の色　井筵
小原女社るるもしる櫻哉　貞雄
紫竹の垂まよう上れさくら哉　旭丘
後ろくくと暮の時しる櫻さく　仝
　　羽人
　　徐哉

居書に延の志をたくさんなる
ちる櫻ちるる風自梟よ延うれ　宮機
ちくくと櫻よ志ほむ出陳哉　松井
風の形の跡しる風や形櫻　篠山
蕚るよ咲よ集よ二度ぬ櫻哉　仝
咲くくぬ自色中くよりたくさん　子之
羅漢ちの櫻　結ちる蕚うれ　葉徑
艦の志くも咲ちくく形櫻　有自
庭櫻が著くくる乾櫻うれ　積西九
三日月や櫻ぬうくぬ跡さ春　よ為
櫻ちくと使ちくくくくくよ遊る蕚　不曲
　　里虎女

[illegible]星の[illegible]人[illegible]櫻[illegible]櫻[illegible]　吏川
[illegible]家[illegible]櫻[illegible]櫻[illegible]の海[illegible]　呂童
[illegible]櫻[illegible]の入[illegible]物を[illegible]　九兮
心[illegible]女の[illegible]櫻[illegible]　如旭
川[illegible]櫻[illegible]　陸奥　南山
大[illegible]櫻[illegible]を盗む[illegible]　二泡
[illegible]櫻[illegible]遠[illegible]櫻[illegible]　雲翠
[illegible]櫻[illegible]　雜用
[illegible]櫻[illegible]　南校
[illegible]櫻[illegible]　西阜
[illegible]　キ山

山[illegible]櫻[illegible]　雨村
[illegible]櫻[illegible]　仲[illegible]
[illegible]櫻[illegible]　抱琴
[illegible]櫻[illegible]　四明
[illegible]櫻[illegible]　大貴
[illegible]櫻[illegible]通[illegible]　風石
[illegible]櫻[illegible]　一之
[illegible]櫻[illegible]　仝
[illegible]櫻[illegible]　薪水
[illegible]櫻[illegible]と[illegible]　考佳　雨夕
[illegible]櫻[illegible]　茄月

[illegible]中の[illegible]を暮[illegible]る櫻[illegible]
櫻[illegible]や月桂の二人連　文里
桂[illegible]桂連義[illegible]の[illegible]
櫻[illegible]又一曲[illegible]　一作
[illegible]仮屋の[illegible]櫻[illegible]　宇雪
宵世[illegible]を免[illegible]蕉夫[illegible]　仝
那[illegible]の[illegible]方[illegible]の櫻[illegible]　藤商
[illegible]通[illegible]櫻[illegible]　仝
川面[illegible]の櫻[illegible]櫻[illegible]　五峨
[illegible]共[illegible]水[illegible]花櫻[illegible]　芝雄
面[illegible]櫻[illegible]　梅宇
[illegible]　寛里
[illegible]　一遊

山櫻

[illegible]櫻[illegible]　四葉
[illegible]櫻の[illegible]　菁花
松山[illegible]の[illegible]　一義
山[illegible]入[illegible]里近[illegible]　斗園
[illegible]　[illegible]花　汀尤
[illegible]山[illegible]　峰友
[illegible]の[illegible]　月下
[illegible]一[illegible]　芭角
[illegible]櫻[illegible]山櫻　素源
[illegible]櫻[illegible]　[illegible]女
[illegible]の[illegible]山[illegible]　多俊
自[illegible]櫻　一甫

遲櫻

大隅や薮もも堂の山ばたに
山桜咲や和ふ庄子殿　一具
あらゝえ兼ゝ桜の内より山桜　松雫
けふもまた望るの待ゝ暮て山桜　石苔
保谷を雲の里之垂さゝ　千之
庵しばの山ゝ遲桜　素芯
雅も来よ友ゝ人あれ桜　松宏
来ゝよさゝあゝ来ゝ来よ垂桜　四美
森の中雲の内ゝ垂はゝ　雲付
梢待を待ゝ雲はゝ雖きや垂はゝ　ゆき雄
来ゝうゝ待ゝ来ゝ咲ゝ人おそ桜　竹里
一具

花

移ちゆ人ゝよ尺ゝ於山の垂桜　不流
忘ゝ来ゝよ咲ゝ待ゝ遲ゝ垂ゝ遲ゝ　雄鎖
遲ゝ待ゝ薮ゝ垂ゝ待ゝ垂ゝ待ゝ　椿海
花ゝ来ゝ来ゝ来ゝ嬉の来ゝ待　可得
ちゝうゝる花や雀の柿ゝ　松舎
桜枝よ尺ゝ来ゝ　蚕浦
西面ゝうゝ待ゝ来ゝ雲ゝ　仝
桜飾ゝ花の下ゝ待ゝ　文鵬
雪ゝ来ゝ羽ゝ出葉ゝ　文光
もゝうゝるゝ白ゝ　笑壷
巻ゝ咲ゝ雲ゝ待ゝ　羽白

尺ばかりなる人まつの花と咲たる
花時やうゝけてまゝ秋の家
時雨籠よ寒しとゝ寒の梅
寒ゝゝ雪ゝゝ来や月冴て
花の色きはやゝもあらぬ色
梅が香の遍ひ色兼房
老ゝ赤雪ゝ尺ばかりなる人まつ
鶯の音のうるはし花の籠
大ゝ紙ゝ一ゝ花の色
米ゝ白ゝ小豆ゝ赤ゝ七月末
ちゝ雪ゝ梅月ゝ雪ゝ寒ゝ

老来
文学
休園
夢郷
伸女
山雄
西秀
山雄
乗木
ちゝ
祖平

花ゝゝ尺ばかりなる兼ゝゝ人まつの
紙の羽織も出来て花の
雪の尺ゝ尺ばかり花よ咲色
ちゝちゝ雪の雪や盃の上
梅人ゝ梅ゝ兼ゝゝ生雪
初ゝも鶯ゝ初ゝ花吉野人
五百月の花ゝゝ花の山
雪梅ゝ時ゝも月の明る来の音
三月ゝ花ゝゝゝる雪ゝ来ゝ
古市も紙の雪ゝ紙ゝ雪の中
川舟や雪の雪ゝ雪ゝ

出羽

四兼
保白
雑同
大貴
玉子
伯丈
源谷
蓼平
一具
一樹
柏樹

[illegible]

十寸　文蓋
松竹　自悦
仝　古拳
仝　文胄
第彼　一角
井米　仙菴

[illegible]

麻笑
仝
栗笑
角よし
昂湖
仝
久蔵
角摩
京師
紙米
素楳

[illegible]
[illegible]
九人を[illegible]
[illegible]の中
[illegible]の中憶[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

貝谷
古峯
鬼郷
古城
[illegible]古
仝
旭丘
蕉丘
二晶
[illegible]
仝

[illegible]
[illegible]の人通り
[illegible]
一木二木[illegible]景[illegible]の中
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちる柳の葉もみな一寸の長
咲る花は押まはさるる葉底哉　一之
夏服は老こそうる俗の云こそうれ　蕪村
世間法雖也舟人の中　夕山
菴の花鄰よりあれて長閑哉　素有
住ぬ人新米山里も花はうり　葉月
酒呑を弱しと入や茶の和く　稲郎
毎夕やちるは落花の猶を残る　友子
咲ちる花の中と成一駕籠　玄子
実生て花よりうるる森白木　五峨
世をとろふ方の花の咲ちらう　仝
陸奥
不着

花ちるや命の底の紙一つ　月参
死ぬ日と有しを笑ひ花の月　云々
咲ぬまあきらめ斗岩山茨哉　雪笠
尺くもきぬ内ちるもの形代　仝
紙一枚叶ふて推ちる実　青志
形代や悦の花ちる松ぬつ　夢く
花よ出て尺くもうる程ちる　四葉
ちるもより茨ねも冬の芽哉　仝
惜ちる形霞もちるうの名　双く
方ん今ちる花ちるや命の指より　仝
実生木のわかもきうう花の中　五峨

花雲

花雨

蔵王堂や霞の色
あらし来る月朧哉
花催す雲や面もの山のおく
行くぬの花あらしの移り色
雲さそふ雲ふかく月朧哉
花の中池の汀も一寸霞
境内は霞ふかく霞の雲
行先も霞に呆れ花の雲
面も来雲の中あらし吉野の雲
花の雲雲をつるもあらし色
うち続やうち続くとあの雲

五峰　五峰　警笛　蘆雪　四華　五峰　椿海　赤角　孟子　五竹　寸米

花見

華厳くかしこ雲色おの色
雲ふかくふかくふかく雲ふかく花の色
花の色四合ふかくと思ふ
後の影や茅蜩とふ色
樹ふかくの影よ河ふかくおもふ
茅屋を思ふふかくふかく
信濃の近ふかくふかく
右村よ扇をふかくおもふ
一壺の後ふれをふかくふかく
下駄捨てふかく捨て行ふかく
黄色ふと思ふ人ふかくふかく

茶飯　雨峰　四翁　置物　素考　一之　夕山　文僻　素有　松怒　四翁　言く

陸奥

身てゐる芝を踏ぬ武尺
木の葉傳ふ夕嚏する茂尺
川越も知れの内の拂武尺
和泉も糸もも伽羅と花見武
乙の子の縫物ねぶり武尺
拙筆の聖るまとる花見武
曲り竹の自慢伽羅武
呂蔵押く紙のわもし花見武
月の糸八面の帝こう木蓮も
海棠や絵の色の冨る程
由業や新ら西の赤こう伽
羅

木蓮花
海棠

宿富
三槐
雁金
季孝
面よ女
貝谷
昭雪
一雨
桃鳩
布席
ちるも

梨花

拂物の橋木も今を梨の花
月雪の札ふけてゆくの花
橋蛍よ縫ふ一房の梨の花
片くと底よ蔵よ蔵の花
梨の花帝を多る行く屋武
若嵯峨屋の東こう梨の花と
帝の花新垂の色の濃る日
山梨や蓑もこそ花のう東
葉屋の葉の新こ伽梨の花
一里よ蘇く伽梨の花
焼こる伽のこ帝や木瓜の花

江戸

赤月
周鈴
五呪
一具
拂物
雁金
蛇得
有く
民枝
桃鳩
一具

杏
木瓜

[illegible]菫や宋山の[illegible]
宋山[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]おくれ[illegible]の[illegible]
伸[illegible]紫[illegible]
[illegible]
[illegible]
貝[illegible]菫[illegible]
法菫法の[illegible]
[illegible]
[illegible]
菊菜の畑[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

芝雄
仝
置溝
素竹
松窓
之重
素竹
夢之
文治
伸女
西考

連翹

辛夷

[illegible]

山雄
大費
乐水
雄嶺
庚辛
宇喜
宗茶
八朶
大梅
恕雪

茶摘

躑躅

桃　椿　海棠　川長　雨降　一雫　杉自　芦帆　雪魯　西令　苔之

第帙
俳奥

藤

糠雨の降かゝるなかを出し式
三笠山をかけつゝ春雨し
世古の人々の蓑笠俳式
雨蓑をかけて元の家作式
俳〻咲て岩屋を家にする花
夕新に初〻初山の俳式
曙の山初きしかるつゝ式
古切る新て拵る俳式
赤作〻物るもかゝね法の
拵をを新るし賣作式
蓑咲や来るもなれ友を尾の蓑

四蓑　賣席　鶏子　春自　藤雨　字弘　陶烟　雄宗　椿南　桃橋　雄宗

蕨や芝の芽えや萩の芽
枝ぶりしなやかに打やふるもの
ふるほや建て殿まく神楽堂
萩ちるや銀杏ちる義経
藤ちるや面時上る以系和尚
山ふるや宋の末を傳て後
小萩や初ふるまて咲くまの伸
庵ゝ伸て実説や萩見る
冥途の札立て行ふるの
実梅も出るまを拾ふ萩の
萩咲やふるふるゝと再ゝ鴨

星谷
新米
面上の安
一茂
月菊
月丁
四明
文傳
宇島
涼荷

山吹

ふちのあ咲や稲ふるの上
櫻のゝて振向方や藤の
面のふち美女物見る深る
竹を振出小巻の集む萩の
振ゝまて出て成ふや萩の
赤山の赤ゝふち咲ね面の
二世夫婦のふるふるの
月のちん岸の代や萩の
巻色の天竜ふるの
杉ふふち持まくまる宋式
山咲の年古屋ふる巻代

道雄
梅宇
蒼文
吏川
文鵬
茅井
二丘
子輪
竹子
雑周
荷子

山路を踏くだる隅川氏
山路を折よ霧ゆ風車　粗年
山路の新ら折生る生れ　為女
山路や山より高る夏菊小　素樸
夏草や松の雫の蔵と成　民枝
雷鳴や雷より高く雷雨　川岳
山路や杜鵑の鳴く井戸　常陸　巣平
山路や樹より入る蔭の杖　思文
山路や江湖所の中入　素白
山路や清水の純麦の垂れ　玉葉
山路や内侍書る屋敷　宇雪
公

山路の雫の下孔小蒙
山路の陰よ小鞠の子　陸　素志
山路人木の枝の雨し　侍月
山路の中〳〵元年生る蜘蛛　一甫　笑彼
夏草や蛍を乗る蜘蛛　美矢
山路や蛍を乗る蜘蛛　仲女
山路の雨〳〵や手乗　面杉
やすらはまや懐這生る蜘蛛　風毛
手を乗て人山路の安生安　蔦
山路よ夏を生る蜘蛛　柔木
山路や世の安生安　石竜
山路の雫の毛　芦帆

草麥　五城
呼子鳥　旭丘
鳥雲入　花甲
麥鶉　一蕙
若鮎　孟安
芳月
永男
梅戸
四季
學石
麻交

小鮎　陶烟
春　水水
大貴
云
雪笠
柳橋
蕙丘
芳菲
麻交
夕山
昭眉

竹蛛
三月尺

春惜
行春

芦帆　周鼓
文淵　桂芽女
宇香　涼茶
文和　玄
仝　山雄
[illegible]

[illegible]

南枝　[illegible]女
仝　丁太
五風　抱保
玄く
四美　荷子
之厚
久蔵

暮簾もふもとの人くと春の月
もく春や仙の高も元聲る　如仙
田の春や山高き里や春の雲　香月
ふ思や明るもとふふ春の雲　雞間
解ちも嘉ともはんは春の雲　雲妹
舟玉の竹の布ちちく雲の先　元雄
塗形と信の橋ゆう春の雲　柏樹
うはとうと春の白雲や無名抄　李竹
春丘人ゆたつ雲春の雲　松什
春の住山ようと春の光り礼　暮安
面ちもの春と紀春や春の雲　壮賛

春題不知

梅咲や人ち春の人通り　瓶乙
杓杞を梅春ちの野欲も法し　篠庵
春和ようちく梅や春の雨　月
管や原形梅ちく梅の梅　庵和
原ようち西春ねふ礼　管笠
梅梅　鄭の山岳り梅形　保月
春春を梅礼雨ふ月春　吟霞
ちへちと鄭ようち春の雨　云く
せちうち春住を梅や春の鶯　文淵
菫菜や立ちちく春春初鳥　仝
　　石苻

梅の香をたづねて侵る袖の梅　雨村
春の夕の香をたづねの梅　五峨

○

ちるを比叡おろしの風　出羽　蕉雄
裏口のうゑる山家や信濃路　仝
雪の上の梅の香　越後　秀和
ふ搗よ来しの春のもとうか　仝
ちるを比叡のもとうか　仝
春の夕ひらる其香梅の香　出羽　来古

類題十萬句集初編春之部下終

巣雨松